

故 高久 功先生 故 今里雅之先生追悼号

漕 魂

25号



2003年

長崎大学医学部漕艇部

表紙写真

～この2つのマグカップは漕艇の名門：オックスフォード大学
漕艇部から高久先生へ寄贈されたものであり、現在は第一薬理
学教室教授室に保存されている～

漕 魂

25号

2003年

長崎大学医学部漕艇部

目 次

△故 高久 功 先生追悼▽	1
△故 今里雅之 先生追悼▽	4
△部歌▽	18
△二〇〇一～〇二シーズンを振り返って▽	19
△新主将挨拶▽	23
△国体記▽	24
△新入生紹介▽	28
△二〇〇二年度試合結果報告▽	
第四一回九州・山口医科学学生体育大会	30
第四九回九州朝日レガッタ	31
第五三回長崎県民体育大会	32
第五四回西日本医科学学生総合体育大会	33
△コックス記▽	
Aクルー記	37
Bクルー記	38
Cクルー記	39
ダブルスカル記	40
シングルスカル記	41
△卒業にあたって▽	43
△雑感▽	44
△その他▽	
長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告	59
長崎大学医学部漕艇部部費収支報告	60
長崎大学医学部漕艇部OB会会則	61
長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿	62
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	71
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	72
長崎大学医学部漕艇部役員名簿	73
△編集後記▽	74

故 高久 功 先生 プロフィール

高久 功 たかく いさお

現住所

大正十年十二月十日生まれ
長崎県長崎市ダイヤランド一丁目四四一五

△学職歴▽

昭和二十一年

東北帝国大学医学部卒業

昭和二十一年

東北帝国大学修練副手

昭和二十二年

同 副手

昭和二十三年

東北大学医学部附属病院副手

昭和二十九年

同 助手

昭和三十一年

東北大学医学部助手

昭和三十三年

同 講師

昭和四十三年

東北大学医学部附属病院長町分院助教授

昭和四十四年

長崎大学医学部教授

昭和五十二年

長崎大学医学部附属病院長

昭和六十二年

長崎労災病院院長（平成四年六月まで）

平成四年

長崎労災病院顧問（平成八年四月まで）

△学会・業績▽

昭和四十四年

（財）長崎アイバンク理事長

昭和四十四年

（任）日本結合組織学会理事

昭和四十四年

（任）日本眼科学会評議員

昭和四十五年

（任）九州眼科学会会長

昭和四十六年

医師国家試験委員

昭和五十年

（任）日本眼科学会理事

昭和五十一年

（任）九州眼科学科会長

昭和五十二年

文部省学術審議会専門委員

昭和五十八年

（任）九州眼科学会会長

昭和六十年

（任）日本眼科手術学会会長

△受賞▽

平成八年

勲三等旭日中綬章

高久 功先生を悼む

漕艇部顧問教官／監督 丹羽 正美

眼科学教授で漕艇部の部長（顧問教官・監督）を勤められた高久 功先生が、平成十四年（二〇〇二年）九月二十二日、急性心不全のためお亡くなりになりました。八十年のご生涯でした。九月二十五日、奥様ご子息様ご家族の皆様はじめ、眼科学のご同門お弟子様ご友人など多くの方々の参列のなかでしめやかにご葬儀が行われ、私ども長崎大学医学部漕艇部もOB会の会員と学生漕艇部員ともども最後のお別れをいたしました。

先生が漕艇部の監督・顧問教官を務められたのは、昭和五十年（一九七五年）から昭和六十二年（一九八七年）のご退官までの間でした。仙台の旧制二高および東北帝国大学医学部のご出身（昭和二十一年ご卒業）で、日本のボート競技のメッカでのご経験をもとに漕艇部の指導にあたられました。再建間もなく、経験者が皆無であった当時の漕艇部の私どもにとって、一九六〇年ローマオリピックのエイト日本代表東北大学クルーのコーチ団の一員として陣頭指揮をとられた高久先生は、文字通り高く仰ぎ見る巨大な存在でした。漕艇部の監督・顧問教官をお願いに伺った時の心ときめきを昨日のように思い出します。一九五四年に、英国ロンドン郊外テムズ川（キャム川）

で、Cambridge 大学とOxford 大学のOBクルーとレガッタをされたお話（Cambridge blue (light blue) とOxford blue (dark blue) のスクールカラーにまつわるエピソードを交えてのお話して、これで我々漕艇部も一流クルーの仲間入りが出るかと確信したものでした。（この時の先生の記念マグカップは、歴代漕艇部監督に受け継がれ、レガッタ勝利の祈念のシンボルになっています。表紙。）

事実、すぐに先生の指導が実り、昭和五十三年（一九七八年）冬には、漕法訓練のため難波裕幸君（昭和五十六年卒）、永山雄二君（昭和五十八年卒）、今里雅之君（昭和五十九年卒）の三名が、先生の母校東北大学クルーの合宿に参加できる事になり、現在の隆盛の礎が築かれたのです。

大学病院長の激務にもかかわらず、漕艇部の会合には欠かさず出席され、ともすれば喧々囂々、意気盛んな若者の酒席も、先生の春風駘蕩、悠揚として迫らず、なごやかな談笑の会になるのでした。なんと優しいお人柄だったことでしょう。

長崎大学医学部漕艇部草創の礎を築かれた高久 功先生に、心から畏敬をこめて、ご冥福を祈ります。

高久先生の思い出

昭和五十七年卒 山近 史郎

高久先生は私がボート部入部時代の眼科学教授で顧問教官でした。

遠い昔ですが、コンパの御挨拶では練習、漕法を考えながら強くなるようにいつもハツパをかけられていたことを憶えております。一年生の夏合宿では子々川に來られてさつそうとシエルフォアを漕がれました。恰幅のいい体格ながら先生の両脚はとても引き締まって鍛えられていたことが今でも強く眼に焼き付いています。入部当時すなわち初心の頃に御世話になりましたので、私にとってはとても想い出深い顧問の先生でした。





故今里 雅之 先生 プロフィール

いまさと まさゆき
今里 雅之 昭和三十三年十二月十八日生まれ

現住所 東京都八王子市緑町九〇〇一

一九七七年三月 長崎県立大村高等学校卒業

一九八四年三月 長崎大学医学部卒業

一九八四年四月 東京女子医大消化器病センター入局

一九八六年五月 中山記念胃腸科病院勤務

一九九〇年四月 中山記念胃腸科病院入職

一九九六年四月 八王子消化器病院に改名

一九九九年三月 直腸癌（計六回の開腹手術）

二〇〇二年一月 八王子消化器病院新築移転

二〇〇二年十月三十一日 永眠

今里先生闘病記

村上漕艇部OB会会長宛のお手紙より

拝啓 今年は桜の開花も早く、月日の経つのがより早く感ぜられます。

先生のご病気の折は、お見舞いもできずにおりましたのに、この度はお氣遣い賜り、恐縮致します。

改めまして、小生の経過をお伝えします。

平成十年十月頃より排便後の出血に気づきましたが、以前より持っている内痔によるものと判断して放置しておりました。年が明けまして、出血の頻度が増して来ましたので、二月下旬に検査施行しました。直腸原発のCaで、同時に肝には大きく三箇所 meta が認められました。平成十一年三月三日に東京女子医大消化器病センター外科主任教授の高崎先生に八王子へ来て頂き、低位前方切除と肝外側区域切除、後区域部分切除、前区域部分切除術を行い、同時に肝動脈へポートを留置しました。その後は六ヶ月間、5FUとIL2の動注療法を継続し、注入に痛みが伴うようになり、中止しました。平成十二年一月に肝尾状葉に十八mm大の meta を認め、尾状葉切除術を施行。平成十二年四月には両肺野に多発転移を認めました。最大径は十二mmでした。IVC内にカテーテルを留置し、5FUとIL2の持続注入を開始しました。また、この年に一月より大学でCTLも開始しておりました。平成十二年六月には肝内側区域の切除断端傍に二cm弱大の meta を認め、肺転移が著変ありませんでしたので、その部分切除術を施行。

平成十二年十一月には肝後上区域に二cm大の meta を認め、この部分切除術施行。平成十三年八月に肝前区域のドーム直下に十八mm大の meta を認め、開胸アプローチが安全とのことでしたので、同時に右下肺野の meta 「肺内で最大の meta 十二mm大」も合併切除して貰いました。右下肺野部分切除。この時点では、肺野の各結節の size に著変がなかったため、その性状を check する意味もありました。最大径の結節は六〇―七〇%が necrosis に陥っております。平成十三年十月に肝後区域と腹壁の間に三cm大の meta を認め、肋骨を二本合併切除する肝部分切除術を施行。八月の時点でやや気になる画像ではあったのですが、そのときは診断できませんでした。この手術後は右背部から右下腹部への痛みが強く残り、行動にもかなり制限が出てきました。今年に入り、三月の検査で第十一胸椎に二cm大の meta と第二胸椎の右側に三・八cm大の meta を認め、北里大学で放射線療法を施行し現在にいたっております。昨年十月からかなり体への負担が大きかったためか、肺野に数mm大の meta が多数出現してしまいました。ただ、これまでの meta は size に著変ありません。現在、TS-1とCTLを継続しているところです。なんとか dormancy 状態を継続したいと願っている状況です。

人生は他人と比較して不幸が始まると思っております。先生も、ご自愛の上お過ごし下さい。

敬 具

平成十四年五月三日

今里 雅之



後輩のお医者さまのお手紙

・・・入局してから初めての出張病院として今里先生にお世話になった者です。

医者にとつてはじめての出張病院、またそこでであった先輩ほど生涯忘れることなくまた自分のその後の考え方にまで影響するものはありません。・・・自分は第二班に配属され、直属の上司が今里先生でした。

病院や年次としては後輩といつても、自分のように一番若くして手術の経験も全くなく、増して他の医局から出張してきたものはむしろ歓迎されないことの方が多いといった世界ですが、今里先生は一切の差別もなくアツペのメスの持ち方から教えてくださり、時にはご一緒にゴルフに誘ってくださったことさえありました。また、まだ何も分からなかった自分に「お前だったらどうする？」とか聞いてくださったたり、時にはまだ保険の制度などが分かっていない自分でしたから、大学病院しか知らない自分は、患者さんのためだけを思い何かを提案すると「保険で切られて院長に怒られるだろうけどやってみようか。」と言ってくださったたり、また一番感謝していることは、いつも自分の後ろで何気なく見てくださってくれて、自分にはのびのびと仕事をさせてくださったうえに、仕事量も多かったですから何かミスをするところそりとそれを直して下さって、知らん顔をしておられたり、また何かの際に自分が書



いた指示のミスを院長先生に呼び出されて怒られることがあっても、決して自分にはその事を言われませんでした。そして、全く別の何かの際に「そう言えば、・・・時は・・・しておいた方が良くから。」とさりげなく注意をしてくださったり、また重症の患者さんを持つているときも「こういった人の場合は、自分の経験だど・・・だと思っただけど・・・」つまり、技術的あるいは経験を積んだ先輩としてのご意見と、あくまで一人の医師としてのご意見を教えてくださいました。それが、何より強く自分の中では残っております。それで何をしてくださっても「お前が下の人間にしてやればいいんだ」と言つて、お金がかかるときにも何回ご馳走していただいたことかわかりませんし、「色々な考え方ももし良いと思うことは下に教えれば良いし、決して自分が全て良い訳ではないから、悪いことは反面教師として学んでくれれば一番嬉しい。」と常々言っておいでました。

・・・今里先生に教えていただいたことは間違いなく自分の中で生き続け、何人もの後輩へ教えていったつもりではおります。

「孝行したいとき親はなし」

今里先生のご冥福を祈りつつ、これからも自分をはじめ何人もの後輩の中で先生は生き続けていかれますことを、先生の墓前に伺いに行く前に、どうかお伝えくださると有難いと存じます。・・・(抜粋)

八王子消化器病院

看護師さんのお手紙

・・・患者様方が先生のことを知り、私にいろいろ話してくださいませ。

皆、先生にかけていただいた一言一言を思い出しては、その意味をかみしめているようです。泣かれる方、お花を持って戻ってきてくださる方、いろいろな方が先生をいとおしんでいます。「先生の意図をくんで元氣にお過ごしください」とお伝えしております。

先生は患者様にはもちろん職員にとっても心から本当になくてはならない存在です。

十一年前の九月にパートで入職した私に暖かいメッセージで年賀状をくださったとき「このような小さな自分を見ていてくださる先生がいる」と思い、とても嬉しかったことを思い出します。

以来、この病院内で激動とも言えるような私の仕事や立場などの変化を、いつも笑顔で支えてくださいました。私にはよく「Take it easy」と言ってくれました。

手術室に入るようになったのは三十七歳のときでした。手術の一戦を始めるには遅いといわれる年齢です。なぜ私が入る手術室に入ることになったかもよく理解していただき、鉛と鞭をよく使い分けて教えてくださいました。

先生の手術はほんとうになめらかできれいですよ。それ

だけにポイントの渦中にはすぐ厳しくなります。注意されないよう、また、邪魔をしないよう必死でした。

二月に先生が執刀された手術で長時間かかる人工膀胱の手術をご一緒したときのこと、少し書かせてください。（この頃、すでに脊髄に転移していました 妻談）

何回か手術を受けたことのある患者様で、はがすことが大変で手術は難航しました。最後に体の表面に人工的に尿管をつないだ腸を縫い付けます。その腸がきれいに飛び出して縫われない場合、患者さんはとても苦心を続けまします。そのようなことを専門NSとして先生と話をしています。

外科医にとつてさんざん疲れた後のこの作業はとても面倒なはず。そのとき先生は一回縫い付けた腸を「〇〇くん、これじゃ低くてだめだね」と言い、もう一度縫い直してくださいだったので。このときの感動は忘れません。疲れておいでしように、患者さまが後で困ってはいけません。と親身になってくださったことに頭が下がります。

・・・これからも仕事で何かあったら、「今里先生なら何て言われるかな」と耳を傾けて心に聞いてみます。・・・（抜粋）

東京女子医大同期の お医者さまのお手紙

・・・彼と親しく会話するようになったのは、女子医大一年目の三期に一緒にローテートした時です。班が変わって数日後に、彼が肝臓病の権威とされていたシャーロックの Disease of the liver and biliary system という本を抱えてナーステーションに入ってきて、自分に対し「千葉大学関係というので錬士に選ばれた人間を俺は実力で見返してやる。肝臓に関しては誰にも負けないようにこの本を読むのだ」と宣言したときのことを、今でも思い出します・・・忙しいことに満足し、日々の雑事を覚えることで医師として満足しつつあった自分にとって、彼の言葉は鮮烈な刺激を与えました。彼に応えるには負けないように勉強することしかない、早速同じ本を買い求め、翌日からは深夜の医局での勉強会が始まりました。仕事が終わった後、時には明け方まで医局の机で勉強したことが、その後の自分の医療の原点になったと思っており、彼には感謝の念で一杯です。

その後も「Maignott の外科学」くらい読んでおかないといけません。といわれれば貧乏なくせに大金を払って買い求め、嫁さんと大喧嘩したことも今では笑い話です。九州出身で同じ血液型で同様にボートを漕いでいたり、学生時代は New England Journal の CPC に感激して勉強会をやった

りと共通項が多く、心の底から気の許せる仲間でしたし、信頼していました。

・・・今里君が白衣姿と聴診器で棺に入っている姿は、彼が死ぬまで医者であり続けたこと、この職業で人生を全うしたことを、自分に訴えているようでした。開業も三年目になり少しばかりだれてきて、休みたいとか仕事を減らしたいとか考えていた自分への叱咤激励と思つて気持ちを奮い立たせております・・・(抜粋)



今里雅之君への requiem

——部歌の誕生——

村上 文也

OBの今里雅之君（長大医学部昭和五十九年卒）が昨年十月三十一日に逝去された。彼からの書簡で病状について詳しく知らされていた私は、覚悟はしていたが、いざ訃報を耳にしたときは、享年四十二歳、あまりにもの天逝に声も出ないほどの衝撃だった。心から哀悼の意を表し御冥福を祈りたい。

彼の壮絶な闘病の記録は未亡人の御諒承を得たので、別稿に掲載させて頂くことにした。

彼の仕事に対する情熱は際だっていただけに、志、半ばにして他界する無念さはいかばかりであったかを推察される。奥さんからの手紙によると、「生前、目標にしていた先輩、井上先生に先立つ無念さを口にしていた」とのことである。

彼が闘病中に編集したBallad (my favorite song) を聞きながらこの原稿を書いている。彼の署名入りのピアグラスと共に私には大切な遺品となった。

今里君が私の診療所のゼミに参加してきたのは昭和五十七年（一九八二年）である。逸材揃いのゼミの学生の中でも、とりわけ彼はすべてに積極的にリーダー役として

目立つ存在になった。卒業後は、先輩の田中精一君が開拓した東京女子医大消化器外科研修コースを選び、研鑽後は八王子市、中山記念病院消化器外科部長として田中精一副院長を支え患者の診療に専念された。

私が漕艇部OB会のお世話をするようになってから、何とかして「部歌」を作りたいという夢があった。今里君が漕艇部の主将として活躍し、ギターを奏でることを知っていたので、OB会総会で来崎した折、「部歌」を作ってみないかと持ちかけたところ、彼はやりましようかと快く引受けてくれた。昭和六十三年（一九八八年）四月十八日のことである。そして八月十九日に作詞が出来上った。

作曲は私の意中の人、長崎のミュージシャン岩谷怜さんをお願いすることになった。九月二十六日に作曲は完成した。清純なワルツ風の「漕魂の歌」は素晴らしい作品である。十一月十二日、長大医学部漕艇部再発足十周年記念総会が開かれた。OB諸兄の拠金による艇庫の完成を子々川で祝い、グランドホテルでの祝賀会で、今里君がタクトをふって岩井氏のピアノ伴奏で初めてこの曲が披露された。

会場で傍らに居られた故高久教授が、「井上さん、念願の部歌が出来ましたね」と喜ばれて握手を求められたのを忘れることができない。かくして念願の部歌が誕生した。

今里君は人間として又国手として数多くの立派な足跡を残されたが、彼が心魂をこめて作った「漕魂の歌」も長大医学部漕艇部と共に綿々と唄い継がれて行くであろう。

今里君、紺碧の空の下、あなたが学生時代に練習に励んだ子々川で、後輩たちがオールを操りながら、あなたの作った「部歌」を声高らかに唄い上げるのをいつも聴くことが出来るだろう。

奥さんに後事を託して、最後は従容として死についた今里君の心境を偲びながら追悼の筆をおくことにしたい。

今里雅之君を悼む

昭和五十年卒 丹羽 正美

訃報を聞いたとき、来るものがとうとう来たかと、自らのために目を逸らさず果敢に闘った貴方の歳月を想い、志半ばで逝った覚悟の悲しみに言葉もありませんでした。

難波裕幸君と永山雄二君に連れられて、東北大学ボート部の合宿に行くのだと、挨拶に来た日のこと、武者修行に旅立つ若武者のように凜々しかったボート部の2年生の冬。長崎に残って大学院にと期待されていたながら、外科医になるために東京女子医大の田中精一君のところに行くのだと、夢と希望に輝いていた6年生の秋。東京での生活を訝る僕に、彼女がデザイナーとして働いて共に異郷での新しい生活を始めるのだと、伴侶の女性とともに幸せの笑顔の卒業前の春。

思い出なかでの貴方はいつも溢れんばかりの笑顔です。旅立ちの半年前、自宅に伺ったときも、つい抗癌剤を忘れさせる貴方の笑顔でした。奥様と子供たちに囲まれて幸せの笑顔でした。これからの奥様と子供たちの歳月に、「いつも僕が見守っているからね」と優しい笑顔を残して貴方は逝きました。

「――食器棚や押し入れに

しまっておくものじゃない

記憶は ひんやりした流れの中に立って

糸を静かに投げ入れ釣り上げては

流れの中へまた放すがいい――」

(Arthur Binard)

今里雅之君 やすらかに眠れ

昭和五十二年卒 田中 精一

あれから何年になるのだろうか。胸膜摩擦音を村上医院の診察室で聞いた。村上ゼミの第一期生として、先生の診察室でのNEJMの勉強会に参加したことをきのうのごとくに記憶している。ゼミの日、診療の終りを待合室にてひとり待っていたとき、先生に呼ばれ患者さんの胸に先

生の聴診器を借りてあて、耳をすませた。

学生運動の終わりつつある頃、ひとの関係が何となくぎこちないキャンパスにうんざりしていた私にとって心に残る出来事であった。からだのなかの事象に静かに耳をかたむけ、発する色を注意深く観察し、そつと触りそしてなすべく事を冷静に判断し毅然と遂行する。

昨年十月三十一日、我々の仲間、今里雅之君が逝った。彼は自分のからだの中で起きたことを外科医として客観的に判断し、そしてその癌に果敢に立ち向かっていった。彼の六回の手術すべてに関わり、彼の温かく柔らかい肝臓や大腸に触れ、そして硬い癌を握りしめた。自己のデータをオーブンにし同僚と諸先輩を信じ、厭世の言葉を聞く事もなく、ただ淡々と明るく、考えられる治療すべてが彼の意見と希望をとりいれて行なわれた。外科的切除、抗癌剤治療、免疫療法、放射線治療など考えられる癌治療のすべてが選択された。並行していくつかの代替療法も採用していたようで、家族のため、患者のため、自分のために生の記録をわれわれにみせつけるがごとく激しく戦った。

退院後一週間もたたないうちに通常の勤務に戻っていた。私の隣の診察室で、長年診ている患者さんとの明るい会話が流れ聞こえていた。ただ診察の終わったあと、遠くから見ていると、耐え難い痛みなのだろうか転移した脊椎の近くに右手を添え前傾で歩く後ろ姿は痛々しく、普通にふるまう日々の中で唯一彼のみせる自然な姿であった。

彼の診ていた多くの患者さんを引き継いでいる。そのカ ルテには赤い字で詳細な病歴要約が記されている。その作業は彼が逝った一年前ほどから始められていた。患者さんやご家族がその赤い字に目をとめられ、まぶたを閉じそして涙を落とされる。

そういえば、彼も村上ゼミで勉強していたのだった。今年の初盆には彼が帰ってくる。そしてまた長い旅にでる。精霊船で帰るのだろうか……。さて私たちは彼になにか言付けることはないか。

今里雅之君の思い出

昭和五十七年卒 山近 史郎

今里雅之君は一年下の入部ですので、最も近い後輩の一人でした。皆さん御存知の如くマルチタレントで彼の言動は先輩も一目置いていた程、存在感の大きい人間でした。いつでしたか私が現役引退した頃、とある居酒屋でボートの練習法で彼と激論を交わした事がありました。彼は和を尊重する坂本龍馬の様な男でしたが、キャプテン時代に見事西医体で三位の成績を収めました。卒業後は会う機会も減りましたが、会う時はいつも彼の笑顔に何故か癒されたものでした。

今里雅之先生を偲ぶ

昭和五十九年卒 小林 誠博

今里雅之先生は、平成十四年十月三十一日に四十三才の若さで永眠されました。

この知らせを聞いた時、私は、暫く呆然と、その場に立ち尽くしてしまいました。今でも、信じられない気持ちでいっぱいです。

先生は、私の一年先輩に当たります。学生時代、練習に明け暮れた日々も、今では懐かしく思い出されます。

先生は、後輩に対して、大変思い遣りがあり、辛い時、苦しい時には、いつも、明るい笑顔で、励まし、勇気づけて下さいました。今でも、感謝しています。

先生の後輩に対する思い遣りと、優しさを忘れず、これからも、ポート部を、心から応援していこうと思います。どうぞ安らかに。そして、いつまでも、ポート部の事を見守っていて下さい。

昨年十二月に今里君の四十九日法要に参席させて頂きました。会食は八王子の奥座敷、高尾の「うかい竹亭」で山の中の閑静な場所で周りは雪景色でした。昔ならさしずめ幕末の志士達が好みそうな落ち着いた料亭でした。きつと彼も好んで仲間と通っていたのではと思います。その席で同僚の医師や看護婦さん、患者さんからの今里君への手紙が読まれました。すごく感動的で、滅多に会う機会のなかった彼の医師としての生き様を垣間見ることが出来ました。ポート部時代の優しさそのままであり、彼の人のなりと坂本龍馬が何となく重なった一日でした。もつと早く彼を訪ねて、ここで酒を酌み交わしたかっと思った次第です。奥様にお願いでそのお手紙をメールして頂きましたので別稿で御紹介させて頂きます。彼を見習って私も後半の医師人生を頑張っていきたいと思えます。

高久先生、今里君、ポート部に確かな足跡を残されたお二人には末永く我々ポート部を見守っていて頂くことを念願いたしております。

今里さんの思いで

昭和六十年卒 日高 真

今里さんは一年先輩で、二人とも教養は三年やり、卒業後は二人とも女子医大消化器病センターに行きました。

大学に入った（というよりボート部に入った）頃は、受験勉強を解放され一人暮らしは楽しく、ビールがこんなにおいしいのかと自覚した頃でした。その頃の生活の中心にボート部があり、一年先輩の今里さんがありました。今里さんは酒と音楽が好きで、いつも明るくて積極的で、拗ねるとかひねくれるなどとは無縁の人でした。それにあのマस्कでしたから、女性にはともかく持てました。合コンでは私はいつも悔しい思いをしていました。

そして今里さんといえばあの三菱ランサーでした。私も女性とつきあうのに、ランサーを借りてうまくいったので、ランサーを期限に返さず怒られたこともありました。

私が女子医大に入局し東京暮らしが始まった時、今里さんは一年早く行っており、期待と不安の私を自宅に呼んでくださいました。その時は既に結婚されていて、奥様の料理を頂きました。女子医大は非常に忙しく、その後二人とも別々の関連病院に出張となり、ゆっくり話をする機会も減ってしまいました。平成八年に私が筑波大に移ってから年賀状だけのつきあいだけとなってしまいました。通夜

の席で、奥様が私の顔を覚えており声をかけていただいた時は、非常に嬉しく感じました。

すべてに生き生きと澁刺として後ろ向きの考えをしないという今里さんの態度には見習うべきものがありました。天性のものだったのでしょうか、もしかしたら自ら努力していた所もあったのかもしれませんが。私の青春の大きな部分をボート部が占めています。その一部を今里さんと共有できたことは、私にとって幸せでした。それなのに歳で逝ってしまったのは、残念に耐えられません。ご冥福をお祈りいたします。

「グレイト！」な今里さんのこと

昭和六十一年卒 中山 大介

僕がボート部に入った年、二年先輩に今里さんがいた。卒業されるまでの四年間、ずいぶんとお世話になり大きく影響を受けた。しかし卒業して東京女子医大に行かれた後は二回しかお会いする機会がなかった。一度目は五年生最後の夏、戸田まで遠征したとき、消化器病センター近くの新婚家庭へお邪魔した。消化器外科医としての修業を始めたばかりの頃だったのだろう。超ハードな毎日をご過ごされているようだった。二度目は今里さんの親友、松尾さんの

葬式の時大村で再会した。松尾さんの突然の死を前にして、お互いに話す言葉が見つからなかった。

その後年賀状が行き来するだけになってしまったが、毎年楽しい年賀葉書が届いた。お子さんたちの写真がユーモアたっぷりなレイアウトされ、思わず吹き出してしまうものが多かった。しかし去年は今里さんからの年賀状が来なかった。秋口に井上さんや田中さんからメールが来て、今里さんがもうすぐ亡くなられるということを知った。人は誰でも死ななければならぬが、死にゆく人に言葉をかけるのは難しい。なんとか言葉を探して病床の今里さんにメールを出した。精一杯の励ましとお礼の気持ちを込めたつもりだった。するとすぐに丁寧なお返事をいただいた。これまでの経過と現在の状況などが正確に、冷静に綴ってあった。ポト部のすばらしさ、ご家族への愛情にも触れられていた。思いのほか力に溢れ、希望さえ感じられる文面だった。

少し安心して、またメールを出した。今里さんの大好きなジョークを入れて、しかしもう返事は来なかった。十一月、八王子までお葬式に行った。棺の中の今里さんはやはり痩せて、鼻が少し尖っているように見えた。着せられた白衣がよく似合っていた。力の続く限り診療を続けられたと聞いた。参列者の列が、あとから、あとから続いた。

しばらくして、今里さんの大好きな曲を集めたオリジナルCDが届いた。ジャケットには今里さんがプールに浮い

てるところ、真剣に本を読んでいるところ、そして一杯やっているところなどがプリントされ、とても素敵なものだった。今里雅之と名前を彫ったビアグラスも一緒に入っていた。ほのぼのと昔を思い出した。集まっては酒を飲み、皆で歌った。十八番はビートルズの「レット・イット・ビー」やビリー・ジョエルの「ジャスト・ザ・ウェイ・ユー・アー」。今里さんらしい歌だ。眼をうるませながら熱唱する姿がカッコ良かった。九山のレセプションでは「燃えるいい女」の下ネタバージョン、「おまえのかわいた〇〇がく」もよく出た。これもまた絶品であった。

今里さんはポトの練習は大嫌いだったが、練習後のビールは好きだった。実際、夏の子々川で飲むビールほど美味しいものはない。ついつい飲みすぎてしまう。ビールは喉ごしだけでよか、喉は通り過ぎたら、管から外に出せんなか。と真黒に日焼けした顔で笑った。当意即妙というかしやれたジョークのうまい人だった。まじめくさった事が嫌いだ。はじけるような笑顔で回りを明るくした。ポト部の仲間を心から愛した。天国で再会したら、「グレイト！」と親指を立ててくれることだろう。

昭和五十七年当時のボート部

昭和六十三年卒 岡野 邦彦

私がボート部に入部した昭和五十七年は青雲高校を卒業して間がなかったこともあり、見るもの聞くもの何でもすべてが真新しく、今里先生のようなキャラクターにも初めて接した次第です。当時主将であった今里先生への第一印象はよくしゃべる面白い人というものでしたが、先生が書かれる文章等を拝見して、非常に文学的なロマンチストではないかと感じておりました。

先生の挨拶の中で印象的なことといえば、自分は移り気な人間であるがなぜかボートだけは続けている。ボートが今までで一番のめりこんだことかもしれないというものでした。「試合に勝ったときの先生の喜びようが印象的であった」と先日ボート部時代の私の写真に走り書きしてあるのを発見しました。当時先生がいかにボートに打ち込んでおられたかということをおも感じ取っていたということがわかります。また、先生の学年をはじめそのころのボート部はさまざまな強烈なキャラクターが混在していました。特に、Aクルーで大介さん（中山大介先生：当時今里先生がダイスケと呼んでいたので私もこう呼んでいました）、日高さんの身長差二十五cmが同じ艇で漕いでいるのをみてなんかすごい！と感じていたのは私だけではないはずです。

また、飲み会で酔いつぶれた日高さんを大介さんが足蹴にしたところ、突然猛獣のように暴れだしたのをみてどこにこのパワーが隠れていたのかわかりませんでした。今里先生も「日高と俺は人種が違う気がする」と言われていましたが私も同感でした。三井グリーンランドでいきなり私を捕まえ、二人で一〇mほど回転しながら急斜面の芝を転げ落ちられたときは、わけがわかりませんでした。また、小林さんが県漕に出場するために自分のお姉さん？の結婚式に出なかつたのもすごい話だと思っていました。気が弱くて言い出せなかつたらしいと聞いて少し納得しました。先輩から引き継がれてきたという八mmのエロテープも何回か今里先生のお宅で拝見し、強烈に印象に残っております。このときばかりはボート部に入って本当によかつたと思えました。今のビデオテープと違って油断すると焼け溶けてしまうという代物で、今里先生がキャプテンの時は撮影係を私らの学年が担当しておりました。今、あれはどこにあるのでしょうか？いずれも(多分)自分で入ろうなんて思っていないが、入ってしまった、まあいい余裕と懐の深い人々が織りなすボート部模様は私の人生の幅を形づくってきたと考えます。

今里先生にボート部に勧誘していただいたことに深く感謝すると共に、今、漕魂にこの様な文章を書かねばならないことを悔しく思います。

追悼への御礼

この度は、亡き夫 今里 雅之 への追悼に貴重な紙面をいただき、心より御礼申し上げます。

ポルト部は彼の人生の基盤でした。村上先生のゼミで医学の真髓を学び、朝戸先生、田中先生、井上先生に憧れ、東京女子医大消化器病センターに入局したこと、八王子消化器病院にて医長として医局員・看護師の皆様の取りまとめに力を発揮できたことも、ポルト部主将の経験が大いに役立ったものと思います。坂本町のアパートから結婚生活をスタートしましたので、彼がポルト部皆様から受けた影響の大きさを私も間近に感じておりました。また、闘病中も先輩、後輩の皆様にご多忙の中、お見舞いいただき、力づけられました。本当にありがとうございます。残念ながら彼の人生はイーजीオールとなりましたが、これからはクルーを励ます姿なきコックスとして皆様の心に生きていきたいら幸いです。

彼が最初の癌摘出手術を受けた早朝に、彼自身が書いた雑感の一部をご紹介します、御礼に代えさせていただきます存じます。

一九九九・三／三 晴れ

ベンザリン服用し、熟睡。夢も見ず、5℃スッキリ目覚める。気分が良い。躁に近い。手術及び術後

Ultrasonography すべとうまく行く気がし、それしか感ぜず、表面的ではない、心の底から感謝と喜びの感情が湧く。何故か。必ずうまく行くと思えてくると、煩惱から開放され、人生の疑問が氷解する予感があること、something grate、創造主、宇宙霊の存在を感じ、この存在からエネルギーが注入された、される気分のため。

皆から支えられている喜びを感じ、信じられないことに、涙が溢れてくる。この充実した気分は数年来の中で最良のもの。

世の偉人達が知っている範囲ですべて、人生のどこかで苦難、苦渋に満ちた時期を経験している。何故それが必要なのか、疑問であった。人間が安易に流れ易い弱い存在からか。自分も役に、大いに役に立つ人間になるためには、受難が必要か、しかし避けたいなと考えていた矢先の出来事……

こんな日に何故有難いと云う気になったのか。痛みを受けたから相手の痛みが分かる医者と云うレベルではない。心から人のため世のため世界の発展生育のため創造に携わってゆく感謝？喜びに満ちた人生を歩んでゆける。これが自分の至命である使命……

漕 魂 の 歌

今 里 雅 之：作詞

岩 谷 怜：作曲



① ま ち を は な れ ひ た ー す ら
み ず ー を き り は し る き よ う
ス タ ー ト え え の き ん ー ち よ う



に し し が わ ー の う み へ す べ り だ
の シ ュ ル ル と ー は ま ー つ か い お ん
が せ り り う ー き が い と あ し げ り



す こ こ ー ち よ い か ぜ し お の か ー お
は あ さ も や の う み に に あ ー て こ い
に ピ ッ チ ー ー を あ げ ろ コ ッ ク ス の ー こ



り キャ ッ チ ロ ー キャ ッ チ ロ ー に じ ん だ あ せ
る キャ ッ チ ロ ー キャ ッ チ ロ ー こ こ ろ ま つ の
え キャ ッ チ ロ ー キャ ッ チ ロ ー も え つ き ん ー



が な が れ だ ー す パ ド ル い こ
は や す ら ぎ ー の オ ー ル メ ー ン イ ー ジ ー
と こ ぎ つ づ ー け あ ー よ ー ろ こ び



う さ あ ー い ー こ う ② み
オ ー ル オ ー ル メ ー ン イ ー ジ ー オ ー ル ③ ス
の ト ー ッ プ ゴ ー ル ル

一、 街を離れ ひたすらに
子々川の海へ 滑り出す
心地良い風 潮の薫り
キャッチロー キャッチロー
にじんだ汗が 流れだす
パドル行こう さあ行こう

二、 水を切る 崎陽の
シュルルと放つ 快音は
朝もやの海に 似合っている
キャッチロー キャッチロー
心待つの は 安らぎの
イージーオール イージー

三、 スタート前の 緊張が
競り合う 気概と足蹴りに
ピッチを上げろ コックスの声
キャッチロー キャッチロー
燃え尽きんと 漕ぎ続け
ああ喜びの トップゴール

二〇〇一〜〇二シーズンを 振り返って

前年度主将 近藤 学

二〇〇二年度西医体は対校クルー五位、総合成績は三位というものであった。昨シーズンの対校クルーは三月から八月の西医体までじつに四度のメンバーチェンジが行われ、対校クルー（以下Aクルー）史上極めて特異なシーズンであったと思われる。そんな二〇〇一〜〇二シーズンを現役部員へのメッセージを込めて振り返ってみたいと思う。

【二〇〇一年九月〜二〇〇二年三月】

順当にゆけば昨シーズンのAクルーからのメンバーチェンジはBサイドの崎元（晋）さん、COXの田浦さん、の二人の代役を探すのみでよいはずだった。ところが昨シーズン三番を漕いだ吉武の腰の具合が依然芳しくなく、COXの代役という点でも代替りの人材に欠けていたことから秋の乗艇練習はAクルーを組まず、一〜四年までを均等にふりわけクルーを編成した。

均等クルーはAクルーにとつては物足りないものではあるが、経験の浅い一年生にAクルーの経験者が直接指導できるといふ点で部全体の底上げにはつながったように思え

る。この時期の乗艇練習は例年十一月に行われる対校戦（以前は我が校と熊本、宮崎の三校で行われていたが、ここ数年は宮崎もしくは佐賀との二校対校戦が行われている）を目標に行われ、このシーズンも宮崎医大と行う予定で話が進んでいたのだが、相手方の都合により急遽対校戦は中止となった。崎元主将の代には佐賀医大との対校戦は行われたが、以前より行われていたいわゆる、三校戦という形式は近年失われつつあるようだ。熊大の一件があったためやむを得ないのだが、いつか復活してくるであろう熊大のためにも、宮崎との対校戦は行うべきだと感じた。

十一月下旬に対校戦の代わりに、子々川レガッタ^{レガッタ}を行い、陸トレ中心の練習へと切り替えた。十二月には恒例の二〇〇〇mの測定を行い、私自身は比較的満足のいくタイムが出せたのだが部全体をみると私が期待する結果を残した部員は少なかった。しかし、大場を筆頭に一年生（現二年生）の健闘は目を見張るものがあり、これからの成長が非常に楽しみに思われた。また、二月には大村での長崎県全体の二〇〇〇mタイムトライアルが行われたがここでも全体的にみると低調な記録に終わってしまった。この時期は試験期間、冬休みをはさむことで体力を落としてしまう部員が多いようである。しかしそれではせっかく秋から練習してきたことが全くの無駄になってしまう。一年生以降、体力面で伸び悩む部員達の多くは全体練習が中断される期間に体力をリセットしてしまうことに原因があるように思

える。自分が時間を費やして積み上げてきたものをぶち壊してしまうのはあまりにもむなしなことだとは思わないだろうか。授業も部活もなく自由に過ごせる長期の休みや学年が上がるごとにタイトになっていく試験日程の間に一人で練習することは困難なことには違いないが、最低でも週に一回は体を動かすべきである。一人で決心できなければ他の部員を誘えばよい。とにかく長期の中断期間に体力を維持することを現役部員には心がけてもらいたい。

「〇二年三月〜九山」

シーズンを前に、まず、Aクルーのメンバー選考に非常に苦労することになった。新たに、現キャプテンの夏田を乗せることは決定していたが、COXと残り一人のローヤーに関してはいまだに未決定であった。何度か行われた話し合いによって、COXは一度引退した田浦さんに例外的にお願いし、Bサイドには腰が完治していない吉武が乗ることになったのだが、前述の通りこれから計四回のメンバーチェンジを行うことになる。COXを田浦さんをお願いすることになった理由は、純粋なCOXが田浦さんと秋から新たにCOXになった松浦しかおらず、松浦をAクルーに乗せるにはあまりに経験が不足していたからである。しかしこのような事態は本来避けるべきであり、そのためにも各学年に一人は純粋なCOXを作っておく必要が

あるだろう。

産業医大の主管で行われた九山では2年ぶりの優勝を飾ることができたが、この結果は単にメンバーが一人しか変わっていないことによる昨年からの貯金によるものだったと思う。実際、二〇〇〇年度に九山を勝った時と比較して試合前の練習は質、量ともに劣っていた。ただ、九山で優勝し、勧誘においてもボート経験者二人を含む五人の新入生を入部させることができたのは一年を通して最も忙しいこの時期としては最高の結果であった。勧誘に関しては責任者であった冬野を中心に部員一人一人が力を尽くし、九山のことがばかり考えがちであった私の力不足を補ってくれたことに非常に感謝している。

「九山〜県漕」

九山後、吉武の腰の状態が悪化し、この先満足に練習を行えないということと新たに三年の荒木をBサイドに乗せることとなった。G・Wに九山の会場でもあった菊池市の斑蛇口湖で産業医大、佐賀医大とともに合宿を行い、新たなクルーで練習に励んだ。即席のクルーということと練習では他の二大学に差を付けられるばかりだったが、自分達の力不足を実感し、もう一度初心に帰って練習できたことは大きな収穫であった。G・Wの過ごし方として琵琶湖で行われる朝日レガッタに参加するのもよいが、実力が不足

していると感じるならこのように他大学のクルーと合同練習を行うのがよいのではないか。できることなら早めにアボをとつて関東に行き全国レベルのクルーと並べて練習するのが望ましいので是非試してもらいたい。

新クルー編成後、しばらくは順調に練習を消化できたのだが、五月中旬に荒木が肋骨を骨折し、しばらくクルーとしての乗艇練習を中止し、各自がスカルで技術を磨くこととなった。また九州朝日レガッタの出場を断念することとなった。九州朝日レガッタは県漕でのライバルである園漕会との力関係を測るよい機会であるだけでなく、普段対戦することのない医学部以外のクルーと対戦できるため出場できなかったことは非常に残念であった。結局、荒木のケガは当初予想していたよりもはるかに長引き、西医体まで完治することはなかった。よつて県漕では代打で吉武に乗ってもらい、その後再びクルーを編成し直すこととなった。尚、県漕で園漕会に勝てなかったことは言うまでもない。

「県漕く西医体」

通常、解剖実習中である2年生をAクルーに乗せることはないのだが、荒木の代わりとなるBサイドのローヤーがおらず、二年の茅田を新たにメンバーに加え西医体に向け練習することとなった。この時点で西医体まで残り二カ月、正直どこまで結果を残せるか、という気持ちであったのだ

が、さらに七月に入り残り一ヶ月となった時点で昨年からのメンバーであり副主将でもあった高田が家庭の事情で離脱することとなった。残った選抜肢は吉武に再々度乗ってもらうしかなく最終的にCOX田浦、S近藤、三茅田、二夏田、B吉武の五人で西医体に臨むこととなった。西医体の結果は初めに述べたが、このような状態にもかかわらず決勝まで残れた理由はいくつかあると考えられるが、最も大きかったのは茅田が解剖実習を行いながら練習についてきてくれたことだと思う。彼にとつては厳しい一ヶ月であったと思うが、二年生で西医体の決勝を経験したことはこれからボートをやっていく上で大きな意味を持つと思うので同級生あるいは後輩達には是非その経験を伝えてもらいたい。私の（個人としてではなく）主将としての一番の目標は「西医体において全種目で結果を残す」であった。そのためAクルーに乗る実力を持っていた豊田にもシングルスカルに専念してもらった。残念ながら優勝をはたすことはできなかったが、三位という結果を残してくれたことに主将としては満足している。またボート経験者の新入生で組んだ福島、平野のダブルスカルもアクシデントに見舞われながらも私の想像以上の結果を残してくれた。彼らの経験と他の三人の能力が合わされば今後のボート部の未来は明るいと思う。

「おわりに」

総合成績三位という成績を納めることができ、主将としては及第点ではないかと感じている。個人的に反省するところは、練習のことに頭が向きがちで後輩、特に一年生とのコミュニケーションを十分取れなかつた点か。最後に無理を承知してAクルーに乗ってもらった田浦さんへの感謝の言葉で締めくりたいと思う。「僕達を見捨てずに乗り続けてくれたこと、本当に感謝しています。」



新主将挨拶

三年 夏田 孔史

もともと一人しかいなかった四年生が家庭の事情によりシーズン中に抜けてしまい、私達三年生が二年にわたって幹部を勤めさせていただくことになりました。色々と未熟な点もありますがしっかりとがんばっていきましょうと思います。

先のシーズンを振り返ってみると平成十四年度の西医体での我が部の結果は、Aクルー五位、総合三位というものでした。Aクルーに関してはシーズン中に怪我人等が続出して最終的なメンバーで練習できたのは一ヶ月ほどしかなかったことを考えるとまずまずの結果と言えるのではないのでしょうか。しかしくじ運に恵まれたことなどこの結果は実力によるものとは到底言えず、逆に如何に安定したメンバーで練習に臨むかということが来シーズンでは重要になってくると思います。それ以外のクルーではシングルスカル・ダブルスカルが健闘し、総合三位に大きく貢献してくれましたが、Bクルーが敗復で敗退してしまったのが残念です。次期Aクルーを担うものが乗るクルーとして、もう少しがんばって欲しいところです。

これらのことも考慮して現在の我が部の問題点を考えると、次のようなことが挙げられると思います。

① 四年生がまるまる一学年抜けることによる部全体の

乗艇技術の低下

② 他大学に比べ体格で劣っている

③ 怪我人が多かったため安定したメンバーで練習できない
この中で①はともかくそれ以外は長年言われ続けながらなかなか改善できなかったことです。同じ学年が二年間幹部をするということは大変なこともある反面、何か新しいことを試してみるのにはいいチャンスだと思います。長年続けることで当たり前になっていた事柄を一つ一つ見直し、より良い形に変えていければと思います。そして来年こそはいい結果を皆さんに報告できるようにがんばります。

国体記

五年 近藤 学

平成十四年度の国体は高知県で開催され、私は長崎県成年男子四十のクルーの一人として参加することとなった。ボート部門の会場は中村市の四万十川であり、清流として全国的に有名なだけあつて気持ちの良い環境のもとでレースを行うことができた。が、午前中は極端な順流で二分台のタイムを出すクルーが続出し、午後からは逆流となつて四分近くかかるということや浅瀬が川の中央にあることなど漕艇場としては不都合な点もみられた。

結果としては、例年のごとく一次予選敗退、敗復敗退といったところであり特に記すことはないと思われる。予選、敗復ともに四の上がりであり、現在の長崎県成年男子のレベルでは勝ち上がることは非常に困難であろう。その辺のことは一昨年の部誌に田辺さんが書いておられるが、混成クルーではクルーの成熟度が低いという問題は依然解決されていない。

さて、せっかく国体の本選に出場するという貴重な体験をしたのでいくつか後輩達に役立つことも私なりに書こうと思う。まず県内での最大のライバルであり、今回の代表でも中心となつた園漕会についてである。年齢は二十代後半の選手が多く、若さという点では（一部の部員を除き）

我々に分があるが、彼らには高校時代からの経験と技術があり、ボートという競技をよく知っている。加えて漕手はほぼ全員身長一八〇cm以上あり、エルゴも一〇〇〇mならば三分一〇秒台でひく体力もある。残念ながら現在の我がボート部では負けて当然といったところか。しかし悲観する程の決定的な差もないと思う。なにしろ彼らはクルーとして集まつて練習することが非常に少なく、〇二年県漕でのクルーにいたつては試合が初めての乗艇だったであろう。また、体力的にもこれから伸びていくことはないであろう。乗艇でクルーの成熟度と個々の技術を高めていけば、現在の若く、レンジの揃つた対校クルーならば近い将来、体格差を越えて勝つことができる相手だと思う。次に、レースに関してだが、レベルの高い試合になればなる程、勝つためにはスタート後三〇〇mまでにトップを取る事が重要であるようだ。実際、国体で見たレースで綺麗に差が決まつたものは一つもなかった。スタートでトップに立つことは相手の動揺を誘い、自分達には落ち着きをもたらす。あとは競りかけてくる相手に絶対に負けないという気持ちでゴールまで漕ぎ続けるのみ、といった戦法が理想的だと感じた。ちなみ園漕会のレース展開もこれと同じものであるようだ。最後に国体出場のおいしい点をいくつか。①期間中の移動費、食事代は全て県の負担 ②朝、夕食では開催県の名物料理がたらく食べられる。しかもメンツがかかっているので手抜き料理は一切ない（今回はやはりカツ

才が絶品でした) ③会場ではジュース飲み放題 ④打ち上げはとていい所に行ける ⑤その挙句に県からお小遣い(行く前に五〇〇〇円+帰りに一〇〇〇〇円)が出る
とまあこんなところだが、是非後輩達には医学部クルーで出場してほしい。そのほうが全然気遣わなくていいし、予算や空き時間も自由につかえてめちゃくちゃ楽しいと思う。

医学部から国体に出られる競技なんてボートぐらいのものだろう。実際、今回の国体にも鳥取大学医学部(成年男子四十)、佐賀医科大学(成年女子四×)がクルーで出ていた。(鳥取大学は一次予選を勝ち上がり、その後二次予選で敗退)。せっかく四年半もボート漕ぐんだから一度は国体に出てやる、といった気持ちをもってほしい。少なくとも私は入部したときからそう思っていた。実際に過去に国体に出た先輩方は何人もいるのだ、現役部員、そしてこれから入部してくる後輩達も実現可能な目標として目指してほしい。そしてできることなら国体でも勝ち進んでほしいと思う。

国体記

五年 豊田 啓介

県漕で三位だった私がなぜ国体九州ブロックのシングルスカル長崎県代表に選ばれたかということから書こうと思う。そもそも長崎県のスカルに関して言えば、ここ数年渡辺さんや楠本君が選ばれている。もちろん彼らのその実力は疑うまでもないし、現に楠本君は全日本選手権ダブルスカル四位という実績もある。しかし問題なのは彼らが長崎県ポート協会（というよりもある人）から予選を免除されているということにある。はつきりいえば、彼ら抜きで県漕に優勝しても代表選考会にかすりもしないのである（最近では若い先生方が、医学ポート部との関係の悪化を危惧し努力なさられているらしい）。私はそれに納得できず近藤に「二人の県予選参加と優勝者が代表となる」ということをお偉いさんに話してくれるようお願いした。結局その話は約束できるものではないとのことであつたが、我々の思いは伝わったようだ。二人は予選から出場することになった。さて試合内容はクルー記に書いている通りである。結局二人には勝てないままであつたが、その結果も自分のポートの試合としてはベストのものであり代表への未練もなかつた。しかし後日の国体選考会で、渡辺さんが楠本君とダブルスカルで出場したいとのことであつたため、三位

の自分に出場枠が回ってきたのであつた。

さて九州ブロック大会は西医体の一週間前、鹿児島県の鹿屋市で開催された。しかし不幸にも台風が上陸したため、敗復なしの一発予選が一日のみで行われることになってしまった。おまけに一度もコースを漕ぐ時間（練習日）も与えられず、ぶつつけ本番となつた。実は今回の各県のシングルスカル代表は非常にレベルが高かつた。昨年の長崎代表であつた石平さんが九州で二位になつたから、私でも大丈夫だろうとの判断で選ばれたのであろうが、監督方は出場者を見るなり、「きびしいねえ」渡辺さんも「シングルじゃなくよかつた」と。二・三年前のインターハイ優勝クルスが三人も出場、おまけにそういった人が予選で姿を消す始末。今にして思うと私が太刀打ちできるレベルではなかつたのだが必要以上に気負つてしまい、借艇は初めてでレース直前にクラッチが緩む（審判艇に締めて頂いたがリギングは狂つてしまった）、コースはどこを走っているかわからない（これから経験するであろう人、大隈湖は視界とコースが平行ではありません。どんなことがあつても一度は練習しておいて下さい）という具合でレースすらできず非常に悔しい思いをしたが、それ以上に残念であつたのは今年が最後であつたため、この大会での経験を生かし次の年にリベンジができないことである。そこで後輩達にこの大会の経験（色々な方の話）を伝えようと思う。（信じる・信じないは自由ですが、もし私にもう一年残されていたら

実行しようと思いました。参考程度にして下さい)

まず体重。身長はどうしようもないが、ボートは陸上と違い艇も後ろに運ばなければならぬ。従って最低七〇kg、できれば七五kgは欲しいところ。事実、参加者で私が一番軽かったことから伺える。

次にパドルの時間。この大会のレベルの人は皆二〇〇〇mが普通であり、一〇〇〇mなんて短距離走と同じらしい。だから二〇〇〇mとまではいなくても普段の練習から一五〇〇m、六分はこなして欲しい。

そしてモチベーション。「自分にはボートしかない、これだけは負けられない」といった人たちが集まっただけ、それに比べると医学部のボートに対する情熱はやはり低いと感じてしまう。それは身内での練習しか行っていない長大では仕方ないことかもしれない。だから可能ならば園漕会や高校生の方たちと週末でも一緒に練習してはどうだろうか。

最後に、楠本君の鹿屋体育大での卒論内容の実験で行ったエルゴの練習方法を載せようと思う。「三分パドル・二分ノーワークを五セット二十五分行う」という練習である。たった三週間で、二〇〇〇mトライアルでピークと同タイムまで持っていけるそうだ。

私は本選には出場できなかったが、こういうレベルの高い大会に参加すると、それだけでそれまでのボートに対する考え方が変わってくる。後輩たちにはできれば四年生ま

でに出場してもらいたい。きつと一回り成長することであろう。

◇新入生紹介◇

笠原 優人

まずは、彼の簡単な紹介をすると、特技・ソフトタッチ。趣味・テレビ、マンガをみることに。好きな芸能人・浜崎あゆみ。好物・菓子、炭酸飲料、西山光郎（！）といったところか。普段はおとなしく、従順な後輩っぽいのが、部で一番アホな先輩はと聞かれたときに、かの重鎮、W佐野氏を真つ先に挙げたところに彼の本性が垣間見える。また、最近はずつコミ返しを学び、先輩いじりの快感を覚え始めているのが不安だ。いずれにしても、彼の、S高校に入る前の純粋な自分に戻りたいという夢が叶うことがないのは疑いないことである。

（文責 原口）

平野慎一郎

今年期待の新人がボート部に入部！ボートの名門鹿屋高校出身のインターハイにシングルスカルで出たつわものである。最も早く入部してくれて、なぜか試乗会のコックスをやっていたりする一年生とは思えない働きっぷりだ。そんな彼はなんと家庭を持つ身である。（二〇〇二年十月に挙式）二〇〇三年二月にはパパになる予定であり、最近の

彼は家庭を持つ男、守るものがある男という雰囲気をも感じさせる。これから家庭と勉強と部活と大変であろうがぜひとも頑張つて欲しいところである。

（文責 西山）

福島 真典

彼には二つの期待を抱いている。まず大きなことには、彼はCOX経験者であり、そのスキルは目を見張るばかりである。初めて聞くようなメニューをやってみたり、普段は気付かないような所を指摘してみたり、地域的に閉鎖的になりがちな長崎という地の我々長大医学漕艇部に多くの新しい風を吹き込んでくれることを期待している。あと一つ、これは最重要懸案であるが、彼にはボート部のイメージを一新してくれることを期待している。多くの長大医学部関係者によると「ボート部↓汚れ」という固定観念が出来ているみたいである。その点、彼は見た目にも爽やか風で、とてもじゃないけれどもエルゴで二〇〇〇mひいた後に顔を真つ赤にしてのた打ち回るイメージは感じられない。ましてや小春日和の医学部記念講堂の前でフンドシ一丁で胴上（以下略）。

彼ならばその固定観念を覆してくれることが出来ると私は踏んでいる。頑張つて欲しいものです。

（文責 松浦）

村田 慎一

中学でサッカー、高校で園芸とゆう異色の経歴を持つ彼は、大学でボート部に入りさらにその異色ぶりに磨きをかけたつある。その生態を観察しても、見ているこちらに「何かが間違っているんじゃないの？」と思わせるほどの振る舞いで、最近は怪しげなエロさまで醸し出し始めてる。さらにハリー・ポッターに似てると言われれば、すぐさま自分のネタにするなど、まさに打てば響くタイプ。それなのに一部で友達が少ないとかいう噂がながれていたり、と様々なキャラを隠し持つてる彼は、今後もあるモツシユアップヘアーから何が飛びだすか、今後も注目度大である。

(文責 茅田)

〓二〇〇二年度試合結果報告〓

第四一回九州・山口医科学生体育大会

二〇〇二年四月二十一日、二十二日

熊本県菊地市斑蛇口湖ポートコース

男子対校舵手付きフオア（四クルー）

蓋 世：C 田浦康明、S 近藤 学、三高田 潤、

二夏田孔史、B 吉武記一

決勝

I 魁偉（佐賀医科大）	三分五五秒一〇	四位
II 蓋世	三分四二秒二七	一位
III 煌牙（産業医科大）	三分四八秒五八	三位
IV 日向II（宮崎医科大）	三分四三秒七二	二位
V 早良（福岡大）	四分一四秒九八	五位

男子オープン舵手付きフオア（八クルー）

鴻 図：C 松浦良樹、S 西山光郎、3 茅田洋之、

2 和佐野喜也、B 荒木孝太

雄 図：C 山道 忍、S 原口雅史、3 末下雅也、

2 大場修治、B 冬野誠也

予選B（三一―二）

I 魁翔（佐賀医科大）	四分〇七秒四二	一位
II 鴻図	四分一一秒一八	二位
III 篠山（久留米大）	四分二三秒一五	三位

予選C（三一―二）

I 不死鳥（宮崎医科大）	五分二七秒一八	二位
II 雄図	四分一七秒二一	一位
III 七限（福岡大）	五分三二秒三二	三位

決勝

I 雄図	四分〇〇秒七八	二位
II 英駿（産業医科大）	三分五四秒五九	一位
III 鴻図	四分〇三秒三二	四位
IV 不死鳥（宮崎医科大）	五分一二秒〇〇	五位
V 魁翔（佐賀医科大）	四分〇二秒三四	三位

第四九回九州朝日レガッタ

二〇〇二年五月十八日、十九日

福岡県遠賀川漕艇場

男子舵手付きフォア (十四クルー)

蓋 世：棄権

鴻 凶：C松浦良樹、S西山光郎、3末下雅也、

2和佐野喜也、B茅田洋之

予選C (四―二)

I 鴻 凶

II Big Bears (熊本大)

III 大和 (山口大)

IV 園漕会

四分二秒九一

三分五秒四七

三分四秒四三

三分四秒六七

四位

三位

一位

二位

敗復B (三―二)

I 鴻 凶

II 鹿児島大

III 桃太郎 (産業医科大)

五分〇〇秒三六

四分三秒八二

四分四一秒三四

三位

一位

二位

ナックルフォア (十七クルー)

雄 凶：C山道 忍、S原口雅史、3伊藤博之

2笠原優人、B冬野誠也

崎 陽：C福島真典、S山口仁平、3平野慎一郎

2大場修治、B吉武記一

予選B (四―二)

I 株新菱A

II 久留米大医A

III 大和 (佐賀医科大)

IV 雄 凶

二分一八秒七六

三分〇六秒六九

二分五五秒六八

二分二八秒九三

一位

四位

三位

二位

予選D (四―二)

I 久留米大医B

II 越佐 (佐賀医科大)

III 株新菱B

IV 崎 陽

二分五〇秒八九

二分四七秒四九

二分一一秒一四

二分〇九秒四〇

四位

三位

二位

一位

準決勝B (五―二)

I 越佐 (佐賀医科大)

II 鹿児島純心女子大

III TONNELS

IV 崎 陽

V 雄 凶

二分四五秒九四

二分四八秒八六

二分一五秒二三

二分〇九秒〇一

二分三七秒七一

四位

五位

二位

一位

三位

男子シングルスカル(十六クルー)

S 豊田啓介

予選A(四一二)

- I 行定勇紀(松山大) 五分二七秒六六 四位
- II 豊田啓介 五分〇一秒八九 二位
- III 晦日雄一(大村城南高校) 四分五五秒〇八 一位
- IV 岡部浩昌(熊本学園大) 五分一四秒二四 三位

準決勝B(五一二)

- I 和泉智彦(三菱化学黒崎) 四分二九秒六一 四位
- II 豊田啓介 四分一九秒七六 三位
- III 小泉貴史(松山大) 四分〇七秒三九 一位
- IV 永広厚雄(熊本学園大学付属高校) 四分一二秒二〇 二位
- V 糠谷亮太(大村高校) 四分三一秒八九 五位

第五三回長崎県民体育大会

二〇〇二年六月二日

長崎県琴海町形上湾コース

男子舵手付きフォア(七クルー)

蓋 世:C 田浦康明、S 近藤 学、3 高田 潤、

2 夏田孔史、B 吉武記一

鴻 図:C 松浦良樹、S 西山光郎、三末下雅也、
2 和佐野喜也、B 茅田洋之

予選A(四一二)

- I 雄図 四分一六秒四五 三位
- II 佐世保高専A 三分三八秒九一 一位
- III 鴻図 三分五三秒〇三 二位
- IV 長崎南商業OB 四分二〇秒四六 四位

予選B(三一二)

- I 園漕会&玖城会 三分三八秒六八 二位
- II 蓋世 三分三〇秒九二 一位
- III 佐世保高専B 三分四八秒一〇 三位

決勝

- I 園漕会&玖城会 三分二四秒一三 一位
- II 佐世保高専A 三分二五秒九四 二位
- III 蓋世 三分三四秒五七 三位
- IV 鴻図 三分五二秒五四 四位

男子シングルスカル(七クルー)

S 豊田啓介、S 大場修治

予選A (三一―二)

- I 豊田啓介 三分五三秒六八 二位
- II 渡辺和宏 (園漕会) 三分四八秒四二 一位
- III 西村嘉剛 (園漕会) 三分五八秒〇二 三位

予選B (四―二)

- I 相川邦治 (琴海町) 四分三五秒〇一 四位
- II 楠本恭介 (玖城会) 三分四五秒四五 一位
- III 石平正己 (園漕会) 四分〇二秒六〇 二位
- IV 大場修治 四分〇八秒〇〇 三位

決勝

- I 石平正己 (園漕会) 四分一四秒六三 四位
- II 渡辺和宏 (園漕会) 四分〇三秒九四 一位
- III 楠本恭介 (玖城会) 四分〇六秒二二 二位
- IV 豊田啓介 四分一〇秒四三 三位

男子ダブルスカル (四クルー)

S 平野慎一郎、B 福島真典

決勝

- I 園漕会C (中山・平野) 三分五八秒七七 四位
- II 園漕会A (波多・鳥越) 三分四七秒六九 三位

- III 長崎大医 (平野・福島) 三分四二秒一七 一位
- IV 園漕会B (西村・尾上) 三分四四秒九八 二位

第五四回西日本医科学生総合体育大会

二〇〇二年八月三、四日

静岡県天竜漕艇場

男子舵手付きフォア (二十一クルー)

- 蓋 世：C 田浦康明、S 近藤 学、3 茅田洋之、
2 夏田孔史、B 吉武記一
- 鴻 凶：C 松浦良樹、S 西山光郎、3 冬野誠也、
2 和佐野喜也、B 末下雅也

一次予選C (五一―三)

- I 魁偉 (佐賀医科大) 三分四五秒一五 三位
- II TITAN (大阪大) 三分五〇秒一三 四位
- III 鴻凶 三分五二秒七八 五位
- IV 蓋世 三分四〇秒九〇 一位
- V 飛騨 (滋賀医科大) 三分四四秒九七 二位

一次敗復B (四―二)

- I 鴻凶 三分五二秒六六 一位

II	英駿 (産業医科大)	三分五三秒一九	二位
III	重徳 (金沢大)	三分五四秒九三	三位
IV	早良 (福岡大)	四分〇一秒七三	四位

二次予選B (六一三)

I	瀏濫 (浜松医科大)	三分四〇秒二九	六位
II	瀛 (浜松医科大)	三分二九秒六二	四位
III	天照II (宮崎医科大)	三分二四秒七四	一位
IV	天風 (岡山大)	三分二六秒七二	二位
V	蓋世	三分二八秒三六	三位
VI	魁偉 (佐賀医科大)	三分三六秒二四	五位

二次敗復B (五一三)

I	鴻図	三分五五秒〇五	五位
II	煌牙 (産業医科大)	三分三八秒八三	二位
III	魁偉 (佐賀医科大)	三分四四秒〇二	三位
IV	湍 (浜松医科大)	三分三七秒六五	一位
V	P E R S E U S II (大阪大)	三分四七秒八五	四位

準決勝B (六一三)

I	瀛 (浜松医科大)	三分三三秒三〇	四位
II	T R I S T A N (大阪大)	三分三〇秒七八	一位
III	天風 (岡山大)	三分三二秒〇〇	二位
IV	蓋世	三分三二秒六三	三位

決勝

V	芝蘭 (京都大)	三分三四秒九六	五位
VI	青州 (和歌山県立医科大)	三分四九秒八一	六位

I	el viento (鳥取大)	三分三六秒三三	一位
II	天風 (岡山大)	三分四〇秒九七	四位
III	T R I S T A N (大阪大)	三分三九秒四〇	三位
IV	飛騨 (滋賀医科大)	三分三九秒〇五	二位
V	蓋世	三分四三秒四一	五位
VI	天照II (宮崎医科大)	三分五二秒五九	六位

男子ナツクルフォア (十九クルー)

崎 陽：C 山道 忍、S 原口雅史、3 伊藤博之、

2 笠原優人、B 村田慎一

予選B (五一三)

I	京都大学B (京都大)	四分二〇秒四八	三位
II	チャーリー (大阪大)	四分四七秒一〇	五位
III	S P f e a t ・ワッキー (浜松医科大)	四分一五秒四五	一位
IV	桃太郎 (産業医科大)	四分二九秒二一	四位
V	崎陽	四分一九秒四五	二位

準決勝B (六一二)

- I 檜艇 (浜松医科大) 四分一四秒二六 五位
- II 轟天 (佐賀医科大) 四分〇六秒四四 三位
- III 熊楠 (和歌山県立医科大) 四分〇三秒一八 一位
- IV 日向 (宮崎医科大) 四分〇四秒二七 二位
- V 崎陽 四分〇七秒六〇 四位
- VI カレン (大阪大) 四分一四秒九四 六位

男子シングルスカル (十一クルー)

S 豊田啓介、S 荒木孝太郎：棄権、S 大場修治

予選A (六一三)

- I 結城 (三重大) 三分四八秒七九 一位
- II 彩天 (滋賀医科大) 三分五三秒一四 二位
- III 森拓 (鳥取大) 四分一四秒四六 四位
- IV 柳沢 (鳥取大) 四分一四秒八九 五位
- V 豊田 四分〇九秒七九 三位
- VI 葛西 (宮崎医科大) 棄権

予選B (五一三)

- I 明星 (岡山大) 四分三七秒八二 四位
- II 荒木 棄権
- III 大場 四分一六秒二五 三位

- IV 滋賀医大S (滋賀医科大) 四分一〇秒三七 二位
- V 谷口 (鳥取大) 四分〇七秒五〇 一位

準決勝A (四一二)

- I 滋賀医大S (滋賀医科大) 四分一六秒六五 四位
- II 結城 (三重大) 四分〇七秒一〇 二位
- III 豊田 四分〇三秒八六 一位
- IV 柳沢 (鳥取大) 四分一〇秒九六 三位

準決勝B (四一二)

- I 大場 四分二二秒六五 四位
- II 彩天 (滋賀医科大) 四分〇〇秒六四 一位
- III 谷口 (鳥取大) 四分〇九秒八四 三位
- IV 森拓 (鳥取大) 四分〇七秒七〇 二位

決勝

- I 結城 (三重大) 三分五〇秒八四 二位
- II 豊田 三分五九秒八九 三位
- III 彩天 (滋賀医科大) 三分四九秒八五 一位
- IV 森拓 (鳥取大) 四分一一秒〇六 四位

男子ダブルスカル (五クルー)

碧：S 平野慎一郎、B 福島真典

ポイントレースA

- I 碧 四分〇一秒八八 四位
- II 紅翔(京成大) 三分三七秒六五 二位
- III 三重大学(三重大) 四分二六秒二七 五位
- IV Jonathan(滋賀医科大) 三分三六秒〇六 一位
- V 昂流(京成大) 三分四六秒二七 三位

ポイントレースB

- I 三重大学(三重大) 四分一九秒七八 五位
- II 紅翔(京成大) 三分四二秒三〇 二位
- III Jonathan(滋賀医科大) 三分三八秒六九 一位
- IV 碧 四分〇二秒九四 四位
- V 昂流(京成大) 三分五〇秒五九 三位

Aクルー記

五年 田浦 康明

九山

一発決勝。スタート、ローイングで宮医が飛び出し一位、こちらは産業とならんで二位発進。そのまま二五〇mまで進み足蹴り五本入れる。この時点で産業が遅れて単独二位、しかし宮医との差は五〇〇mまで変わらず二位のまま。六〇〇mすぎから宮医の艇速が落ちてきて七〇〇m付近で追いつく。七五〇m足蹴りでキャンバス抜け出て一位になるが、その後は宮医と競ったままゴール。

県漕

予選：ローイング終わった時点で園漕会にキャンバスの差をつけて一位。二〇〇m、六〇〇mで足蹴り五本ずつ入れる。一位ゴール。

決勝：スタートでは園漕会、佐高専と並んで出るが、ローイング、コンスタントで水中が弱く徐々に引き離される。二〇〇m、五〇〇mで足蹴り五本ずつ、七五〇mから足蹴りを入れるが艇速伸びず三位でゴール。二艇身以上引き離

されていた。

西医体

一次予選：スタートで抜け出し滋賀医について二位発進。ローイングも艇速変わらずコンスタントへ。二五〇m、五〇〇mで足蹴り五本ずつ入れ、この時点で1位。最後二〇〇m手前からピッチを落とす。一位ゴール。

二次予選：スタートからばたつく。ローイングでも立て直せないままコンスタントに移行。三位だが混戦模様。二五〇m、五〇〇mで足蹴りを入れるが、焦りが感じられ艇速が伸びない。六〇〇m付近から浜医二番艇にせまられ一度かわされるが、七五〇m足蹴り、最後一五〇mスパートでなんとか三位ゴール。

準決勝：前回と同じくスタートではたつき艇速が出ない。混戦発進。コンスタントから二五〇m足蹴りで何とか立て直し三位を確保するが、ほぼ横並び状態が続く。五〇〇m、七五〇m足蹴りでも完全には抜け出せず、残り一〇〇mでスパートを入れ、三位ゴール。

決勝：スタート、ローイングはうまくいくが、コンスタントで徐々に離される展開。二五〇m、五〇〇mで足蹴り入れるが他艇との差は縮まらず六位のまま。六五〇mほどで宮医が切れ込んで艇が止まり五位に。他艇との差も一艇身ほど、最後八〇〇mからスパートを入れるが、差は縮まらず五位でゴール。

総括

今シーズンは怪我人の多い年であり、西医体で漕いだメンバーも二週間前からしか乗艇練習ができなかった。Aクルーには二年生が一人乗るという前代未聞の厳しい状況であり、このメンバーでの決勝五位は予想以上の結果であったと思える。

Aクルーとしての反省点は、練習不足の一点に尽きると思う。エルゴの表を見ても然り、乗艇を見ても然り、とても西医体優勝を狙える状態ではなかった。

そして、この点はAクルーだけの問題ではなく、部全体の状態を反映している。ひとつには、怪我を予防するための運動をおろそかにしていた点。もうひとつは、怪我で抜けた穴を埋められるだけの人材がいなかった点である。

怪我という点では、Aクルー以外の人間はシーズンを通して漕ぐことができていたので、要はAクルーの練習に耐えられる体をもった人間がいなかったということであろう。この原因はオフシーズンの練習不足にあるのではないだろうか。

そして二点目。私が知る限り、Aクルーに二年生が乗るといふ状況は我が部ではありえない事であった。単純に考えてみると、三年生以上で当時Aクルー以外のローヤー（として練習してきた人間）は六人存在し、抜けた穴を埋めるには彼らの中から選ぶほうとするのが必然である。だが、そのたったひとつの穴を埋める人材が六人の中には存在しな

かった。ある程度のセンスやポテンシャルが求められるとしても、ボートを始めて一年しか経っていない人間に頼らざるをえない上級生の不甲斐無さは、責められて当然のことと思う。

新しい幹部以下、負けた理由を云々言うよりも次の一勝に向かつて練習してほしい。練習したからといって必ずしも勝てるとは限らない。けれども、努力なしに得られる勝利などないのだから。

Bクルー記

二年 松浦 良樹

今年の九山、九朝、県漕はとてまじやないけれどもよろしい出来ではなかった。焦ってしまった、レースの時には落ち着いて的確な指示が出せなかった。レース中はやらないといけないことが山のようにあり、結局は隣との差とピッチ、タイムを言うだけに終始してしまい作戦なんてあったものではなかった。そのことは今でも悔やまれ、今後の最重要課題となった。

西医体では一次予選で我々長大のAクルーを含め強豪達と当たってしまった、あえなく最下位となった。漕ぎ自体は悪くはないのだが、圧倒的な力と根本的な体力の差とい

うものを感じた。一次敗復にまわったわけだが、そこでは人生最初のトップゴールを体験した。隣のレーンにはライバルとも言うべき産業のBクルーがいて、否が応にもクルー全体に気合が入っていた。我々は後半にバタつき差を縮められたが、何とか勝てた。そのときは物凄く嬉しかった反面、「あと一〇〇mあったら負けていた」という反省があった。しかし二次敗復では気が抜けてしまったのか、結果は惨敗であった。とても悔しく、何も出来ずに終わった自分が恥ずかしかった。

COXは試合経験をたくさん積んで強くなっていくものではあるが、私の教育のために最終年を付き合っていたいた和佐野さんや末下さんに申し訳なかつた。

Bクルーに乗っていて多くのことを学んだ。それと同時に、長崎大学医学漕艇部の欠点や、これからやって行くべき課題と言うものが見えた様な気がする。

Cクルー記

四年 山道 忍

九山：S原口 3末下 2大場 B冬野 で臨んだこの試合。場所は熊本県菊池市斑蛇口湖。予選は順当に勝ち上が

り、いざ決勝へ。相手にはBクルーもいたため、試合前にはとりあえずBクルーに勝つという目標をたててスタート地点へ向かった。スタートの合図とともに抜け出し二位、Bクルーにも勝っていた。五〇〇m地点までは一位産業医大二位長大Cクルー、三位争いに長大Bクルーが含まれていた。その後、じわじわと産業医大に離され、三位グループに追いつかれた。しかし、最後の二〇〇mでスパートがきまり、差されることなく、そのまま二位。試合前の練習では納得のいく漕ぎができていなかったものの、見事な結果を残せたことを喜ぶたい。

九朝：一年生初めての公式戦。ナックルといえどもまだ漕ぎ始めたばかりの素人であったため、当然のようにバランスがとれず、キャッチもまともにできていなかった。結果は予選敗退。一年生には試合がどういうものかわかっていてくれればありがたいものだ。

県漕：一年生にとって初めてのシエルでの一〇〇〇mでの試合。このクルーになつて漕ぎ始めたのが二週間ほど前からで、しかも四人中三人が一年生ということもあって、本来のスタート形式はとらずにノーワークスタートをすることにした。しかし、それでもタイミングがあわず、いきなり他クルーにおいていかれる形となった。その後もほとんどバランスをとることができずそのままゴール。一年生にとつてはただただきつかった試合になったのではないだろうか。

西医体：今年はカリキュラム変更により前期試験が西医体直前まで行われていたため合宿に入ることができず、十分な漕ぎ込みができなかった。これまで一年生は本来のスタート形式を経験していなかったため、特にスタート練習に力を入れ、一回の乗艇で納得のいくまでやった。

試合当日、練習不足のためいい結果は期待していなかった。予選ではスタートで出遅れ最下位。しかし、そこからの粘りが凄く、他クルーに離されない。スパートも決まり、見事二位で準決勝進出。従来ならば敗者復活を漕いで準決勝にいけるかどうかというところなのに今年の一年生は本当に凄いなと思った。二日目の準決勝ではスタートは予選と同じく少し出られたものの、徐々に追い上げ佐賀医との三位争い。八〇〇mまではいい勝負になっていたものの、ラストで逃げられ、結局一秒差の四位。あと一步のところまで決勝には進めなかったものの、ローヤー四人中三人が一年生という編成を考えるとややできすぎだったかもしれない。今後の活躍に期待したい。

※一年生の後日談より：

本当にきつかった。最後の二、三〇〇mぐらいはほぼただ体を動かしてただけのような感じだったと思う。「もういや！」と思ったところ、原口さんの「俺についてこい！」という言葉に感動して頑張ることができたと思います。あと、山道さんの声かれがれの「スパート」にはやられた…。

(村田慎一談)

西医体は僕にとって二度目の大会であり、初めての一〇〇〇mの大会でした。予選のスタート前、練習であまりスタートがうまくできなかったことを思い出し不安になりつつスタート。気が付いたら最下位でした。もう漕ぐのをやめたいと何度も思いましたが、山道さんの声で少しづつ追いついていく最後まで何とか漕ぎきることができました。結果は二位か三位か微妙でしたが、二位という放送を聞いたときはかなり嬉しかったです。準決勝は次の日でした。今度こそと思っただけスタートでしたがまたしても失敗。それでもなんとか追い上げ佐賀医との三位争いになりました。きつくなつて止めたくなくなったりしましたが、山道さんのかれながらの大声や原口さんの俺についてこいという声でいつも以上の力を出すことができました。結果は残念ながら一秒差で四位でしたがいい経験になったと思います。

(笠原優人談)

ダブルスカル記

五年 高田 潤

二〇〇二年の九山は、ストロークが高田、バウが荒木で臨むこととなった。

練習は春合宿から始めることとなったが、バウの急病などもあり、主に合宿中はシングルで練習を行った。自分はスカル競技での試合出場経験がなかったので、正面の目標物をまっすぐとらえたまま強く蹴ることを意識して、ロング中心に練習を行った。二年生の平野がシングルでインターハイ出場経験もあるため、バウに乗って技術的なことも教えてもらったりした。

当初出場クルー数の関係でスカル種目のレースがあるかどうかは微妙なところであったが、直前になって出場が決定した。ダブルであわせての練習回数が少なかったため少々不安を抱えながら試合に臨むこととなった。

レース結果

長崎医 四分三九秒七三

宮医 六分二七秒七三

スタートから恐ろしく差をつけることが出来た。勝つのはまちがいなさそうであったので、一〇〇〇メートルをきれいに漕ぐことを目標にした。班蛇口湖には珍しく風ができて白波も立っていたので、少々すりすぎの感があったが、おおむねきれいに漕げた。まっすぐ艇を進めることもスカルでの試合出場経験が豊富な孝太郎のおかげで特に問題はなかった。もう少しあわせて練習できていればより良いタイムが出せていたように思う。

今回は借艇での出場であったが、非常に漕ぎやすかった。うちの大学のダブルは少々ガタがきているのかも・・・い

ずれにせよあんなに差をつけることが出来た試合はいままでなかったもので、競り勝つのは違う醍醐味を味わうことが出来た。

シングルスカル記

五年 豊田 啓介

九州朝日レガッタ(エントリー十六艇)

一日目、予選は四艇で行われた。二位までが準決勝に進めるのでそれに入れればよいという気持ちでレースに臨む。この時は一位上がりのほうが準決勝の組み合わせが楽になるなど考えてもいなかったため、二枚上げなどいれずに一位の相手を斜後ろに見ながら二位で予選通過。

二日目、昨日の予選通過者と敗復上りを加え、五艇で準決勝が行われた。二位までが決勝に進める。ここで各組予選の一位通過者二人と当たることに気づき後悔する。スタートから全力で漕いだため六〇〇m位までは自分を含めた三人が並んでいたが、そこから徐々に離され三位でのゴールとなり決勝へは進めなかった。

県漕(エントリー七艇)

予選は園漕会の渡辺さん、西村さんとの三艇で行われた。

西村さんには三年前、手を抜かれて負けてしまったのでリベンジを誓う。四〇〇mまでは横一直線であったが、そこから渡辺さんが出て行き、七〇〇mでは一艇身つけられる。西村さんとは自分が半艇身出ていたに過ぎなかったが、この頃から徐々に落ちてきたため八五〇mから足蹴りで突き放す。二位で予選通過。

決勝は園漕会の渡辺さん、石平さん、鹿屋体育大の楠本君とのレースとなった。石平さんは去年の国体代表であったので最低でも彼に勝ち、できれば優勝しシングルスカル代表を目指す。スタートから三〇〇mまでは四艇並んでいたが、そこから渡辺さん、楠本君がキャンパス抜け出し、彼らにレースを引っ張られる。五〇〇mで彼らに一艇身つけられ徐々に視界から消えていったため七〇〇mから三〇〇mのロングスパートをかけることにした。ここから石平さんを突き放し八五〇mで楠本君に一艇身まで詰め寄り視界にとらえ渡辺さんも見え始めたが、彼らもスパートをかけたため追いつけず、渡辺さんに一艇身半、楠本君に一艇身つけられたまま三位でゴールとなった。

西医体（エントリー九艇）

一日目、五艇による予選で三艇が準決勝へ。二艇が好スタートを切ったので追いかけず、他の二艇を見ながらライトパドルで漕ぐ。三位通過で準決勝へ。

二日目、四艇による準決勝で二艇が決勝へ。スタートか

ら自分と三重大が飛び出す。ピッチ二六前後のパドルで漕ぎ八〇〇m位で三重大がペースを落としたため足蹴りはいれずそのままゴール。一位通過で決勝へ。

決勝は四艇レース。スタートはベストでキャンパス飛び出す。三〇〇mで自分と三重大、滋賀医が並び、ここから滋賀医が飛び出していく。七〇〇mまで三重大と並んでいたがスパートを早めにかけれられ引き離される。足蹴りを入れても追いつくことはできず三位となった。

シングルスカル記

二年 大場 修治

シングルスカルとして県漕と西医体に出場。県漕は予選、三の二上がりでスタートとコンスタントで三艇身差つけられて、残り二〇〇m位でスパート。二艇身差まで縮めたがそこでゴール。西医体は予選、棄権者がいたため三の二上がりで無難に二位で準決勝進出。準決勝は四の二上がり、スタートから二五〇mまでは上位二艇と争っていたが、体力が続かずにそのまま差を離され続けて準決勝で敗退。

卒業にあたって

好きな一文

六年 崎元 晋

卒業するにあたり何かボート部員の面々に送る言葉を探してみました。現実的になれ、と忠告する人々はいつの世の中にもいる。夢を潰し、人生を貧しくするのが自分の努めと思っている人々である。しかし、ありがたいことに、人の持つ理想を励まし、人の目標に喜んで付き合おうとする人が、少数だが必ずいるものだ。

マックギニス僕が大学生活をボートに費やし、このような言葉となりました。こういうの、好きです。やっぱりボート部でよかったですなあ。

みんな頑張つてね。こちらもOB会費を払うようしっかりと頑張ります。

〽 雑感 〽

最近思うこと

五年 猪狩 圭介

現在僕は臨床実習中なのですが、慌しく慣れない環境で、けっこうストレスが貯まったりすることがあります。そういう時、子供と遊ぶのはよい気分転換になります。小児科の実習中にふと思いついて、僕がいつも車の中に置いているゴリラのぬいぐるみを子供のところに持って行ったところ、すごく喜ばれ、それ以来いろんな子供のところに休み時間などに遊びに行っています。大病院に入院している子供は軽症から重症まで様々ですが、遊び盛りの彼らはたいてい時間を持て余しています。特に小さな子供はちよつとしたことでも喜んでくれるので遊ぶのが楽です。疲れた時などに無邪気な子供の笑顔を見ると、何ともいえない癒された気持ちになります。

最近思うのですが、ポリクリは患者さんのサイドから医療現場を見ることができる最後のチャンスかもしれないかもしれません。ドクターになるとゆつくり患者さんと接する時間がなくなると思います。ベッドサイドでおいしいさんの長話にじっくり付き合うのも、今しかできない貴重な経験なのかなど思ったりする今日この頃です。

ボートに勤しんだ日々

五年 田浦 康明

やる気があつてかつ時間がある今この時に雑感を書いておこう。

たった半年間だけ漕いだシーズンでも意外と印象に残っているもので、最初に勝ったレースは僕の中でも五本の指に入るくらいの思い出だ。最初に僕らの指導についてくれたのは山本さんで、当時の僕はAクルーというのが部にとつてどういう存在なのか実感できなかったけど、今考えしてみると、こんなにすごい人が僕らについてくれていたんだと心から感じる事ができる。艇の上ではとても丁寧に教えてもらったし、自分でも漕ぎ方はなかなかいい線いってたんじゃないかと：氏家さんにはやっぱり注意された記憶があるけど。シーズン途中には（なぜか）聖士さんが一回か二回コックスとして乗ってくれたこともあつたし、最後のほうは渋谷さんだったから、僕は指導してくれる先輩に相当恵まれていたんじゃないだろうか。試合は、一年クルーよろしく九朝や県漕では勝てなかったけど、西医体で初めて勝つことができた。そういえば、九朝の芸では「相撲で及川さんに投げられ」「帰り道渋谷さんの車内で吐き（申し訳ありませんでした）」「翌日二日酔いで病院点滴」：ひどかった。点滴はすごい気持ちよかつたけど。話を戻

そう、僕らのクルーは結局その一勝だけが最初で最後の勝ちレースだったけど、自分でも物事に対してこんなな一生懸命がんばったのは本当に久しぶりで、とても爽快だった。八月末、学校も始まるうかという時期に土井さんから電話。「コックスやらない?」。あつさり僕が引き受けると「いいん? 漕ぎたいんじゃない?」とやや拍子抜けしたようだった。電話をしてきたのが及川さんではなくて土井さんだったのがポイントか? (余談: 土井さんの話術には今の近藤達がのせられている) そういえば (第二弾)、土井さんは僕のパソゲーを一個持つていったままだ。

コックスとしての経歴は長いけど、これも最初の試合は結構覚えてる。三校戦の芸は文句なしで僕ら長大の圧勝だったけれど (晋、汚れ役ごころうさんでした)、コックスとしての初試合は負けた。その時のクルーは均等に組んであったから、試合の勝敗はコックスにかかっていると考えるのが適当で、だけど西條さんのクルーに勝てなかったのは本当に悔しかった。それは仕方がないことかもしれないけれど、コックスはエンジンにはなれない以上、自分の能力を示すには試合で勝つしかなかった。

最初のシーズンは、諸事情により西医体には出られなかったけど、ここで諸藤さんと一緒に乗ったことは自分がレベルアップするひとつのきっかけだったと思う。あの時教えてもらったことが、後の自分のあり方にとってもいい影響を与えてくれた。そういえば (第三弾)、九山の芸の汚

れ役は僕にまわってきた。三校戦に続き長大圧勝。

その次のシーズンは、引退した及川さんに乗せて、リベンジシーズン。簡単には勝てなかったけど、九朝から徐々に調子を上げていって、県漕では三本ひいたし (これはコックスにとってもハードだ)、西医体では準決勝までいくことができた。及川さんと末下は、腰を壊しながらも一生懸命がんばってくれた。全員が努力した結果だった。

僕のBクルーとしての最後のシーズンは、不完全燃焼に終わった。ローヤーの体調管理がうまくいなくて、シーズンを通して充実した練習ができなかった。やっぱポイントには勝たないと面白くない。そう思った。

現役最後のシーズンは、対校。「must be (くねばならぬ)」 || 勝たなければならぬ。最上級学年として、幹部として、対校クルーのコックスとして。晋と近藤が乗っていたから、僕はある意味後輩分なんだけど、そんなことは言ってもらえないわけで、のしかかるプレッシャーは相当なものだった。試合前日には眠れないときもあった。九山では応援してくれる先輩や後輩に対して申し訳ないレースをしてしまったし、県漕でも完敗。あのころはつらかった。結果を求めすぎたのかもしれないけれど、対校はその結果がすべて。努力が報われたのはその後、場所は福岡、西医体二日目。近くで働いておられる先生方も続々と集まれ、今までにない大声援。準決勝を勝ち上がり、ついに西医体決勝。そして四位入賞。だけど、「もう少してメダルが取

れた」というよりは「メダルを逃した」といったほうが的確かもしれない。結局僕は、準決勝で犯したミスを償うことができなかった。最後の最後で、僕は自分自身に負けたと思った。悔しかった。本当に悔しかった。

…とまあ振り返ってみて、五年間をたったこれだけの文章で書いたんだけど、前述した「五本の指」を挙げるとすると、①福岡での西医体決勝、②福岡での西医体準決勝、③大阪西医体までの練習の日々、④部員になって初めて勝った試合、⑤無一にて先輩の前で泣いた事、だろうか。

ボート部員からボートを取ったら何も残らないと言うけど、僕もそんな人間だと思う。生活の中深くまで浸透していて、別に早く寝てるわけでもないのに、六時くらいには体が反応して目覚めることが多い。…なんともいやな反応だ。そういうえば（最後に）、電停の前で寝たことがあったのはひどかった。個人的には気持ちよかったが。

雑感

五年 山口 仁平

今年、引退して旅行ばかりしてました。ボートに関するの思い出は、五月に一年生と九朝のナツクルで優勝したことぐらいで、あまりなかったです。

最近、ポリクリで先生達と話すのが楽しい毎日となつてまいりまして、とうとう合コンも卒業しようかなと考えてきました。

でも、これを読む来年にはまた合コン好きなかわゆい後輩（吉武 等）に「人数足りなんいんですよ。」とか言われてしかたなく（あくまでもしかたなく）行っているような気がします。

雑感

五年 近藤 学

引退した今、現役時代を思い返してみると、我ながらレースのことは予選、決勝関係なく本当によく覚えているなあと思う。とはいえ一レースごとに書いてたらきりがないので何か他にかくことないかなーと考えてみると、意外に移動中に車で聴いたいくつかの音楽がはつきり頭に残っていたりしたのでそのことについて書いてみることにしよう。

一年の時のでよく覚えているのは、（今はなき）三校戦のクルー（ウイさん、青さん、西條さん、ススムさん、俺）で、ススムさんの車で聴いてたやつだ。オフスプ、グリーンデイとかメロコアが多いなかに、（今はなき）LUNA SEAが混じってたのを鮮明に覚えている。今はあのCD

全然聴いてないんだらうなあ・・・。

解剖と朝練で屍と化していた二年の時に聞いたので一番印象に残っているのは、惨敗した九山の後、遊びに行く時に西條さんの車で聴いた椎名林檎の「無罪モラトリアム」だ。このCDは結局自分でも買って、今でも時々、無性に聴きたくなることがある。

はじめてAクルーに乗った二、三年の時は、ほとんど西條さんのアウディで移動していたが、西條さんはコロコロ車に載せるCDを変えていたので頭に残ってるものは色々ある。強いていくつか挙げればMAXとPAFFYとロクセットだと思う。MAXはシーズンを通して聞いていたし、PAFFYのベストは一番つらい七月から八月に、ロクセットは琵琶湖の朝日レガッタの帰りに聴いた。それにしても西條さんは今でもMAXが好きなんだろうか……。四年、五年になると自分で車を出すことも多くなつたが、不思議と自分で買ったCDは思い出として強く残ることはないようだ。そんな四、五年で一番思い出に残っているのは、松浦川での九山の移動中に吉武の車で聞いたスピッツのベストだ。試合は二年のときの九山と同じくらい悲惨なものだったが（一、〇〇〇m漕ぐのに五分かかり、しかも三位だった）、唐津の落ち着いた雰囲気とともに強烈にインプットされている。このCDも自分で買って、今でも時々聞いている一枚である。

と、入部してから引退までで強く頭に残っているものを

書いてみたが、傾向としては、辛いときや落ち込んでいる時に聞いたものが強く残るようである。と、最後に一生耳にこびりついて離れないであろうCDを三枚、AEROS MITHの「Get A Grip」（とくに最初の鳥の鳴き声みたいなやつ）、OFF SPRINGの「AMERICAN」、CONSPIRACY Of One」。

引退してみた

三年 末下 雅也

五年続けたボート部も、晴れて引退した。一年間コックスだったので、四年もキャッチローキャッチローしていたことになる。今のところ、「ちようど一人足りないんですよ！」という恐怖の電話もかかってきていない。平和な毎日である。早起きって何？

引退したということは、それだけ年をとったということでもある。入部当初十八だった俺も今は四捨五入して無理矢理ハタチを維持している。後輩に負けまいと、「俺も昔はすごかったんだぞ」と自慢しても、それ自体かつこ悪いし、パハも昔はモテたんだよガハハ、やだよお前さんたら、といった感じ（分からない人はスルーして下さい）がして気が引けるし、実際大したこと無かったので先輩や同級生

がいたら一発でバレてしまう。うーむ、どうしたものか……。とりあえず時間ができたので、趣味に没頭できるはずだけど、麻雀ばかりしてるわけにもいかないし、勉強…勉強ねえ、後でやります。

浪費癖のせいであまり実現しないけど、旅行を計画、実行しています。みんなも引退後の過ごし方はちゃんと考えましょう。

雑感

五年 豊田 啓介

引退してから運動をしていないため、ものの見事に筋力は落ちていきます。もうエルゴも回せないでしょう。そんな毎日を今は受け入れていきます。でも心残りなのは納得のいく終わり方では無かったと言うことです。今にして思えばまだまだ練習できたんじゃないか、体調管理をなぜしつかりできなかったのかとかばかり思います。後輩の皆さん、結果はどうであれ自分なりに満足のいく終わり方をして下さい。さもないと、かーなーり悔やむことになると思いますよ。ああ、武田大作選手と並べてみたかったなあ。。。

雑感

四年 山道 忍

今年最後の一年ということもありオフシーズンから練習を頑張っていたが、シーズンに入ると部員数の都合でC OXをやることとなりそのまま引退を迎えた。自分としては最後の西医体は漕いで完全燃焼して終わりたいと思っていたが、今となっては一年生と楽しく練習ができ、試合でも満足のいく成績を残すことができたのでまあよかったと思う。最近どうもさっぱり飲み会に誘われなくなっただけで、引退したとたんにかうなるのは寂しいんで誰か誘ってね(´▽`)

ボートを現役引退してからの僕々 なんちゃってダンサー

五年 吉武 記一

二〇〇二年八月、僕はボート部の現役部員を引退した。入部して引退するまでの五年間、『ボートを漕げるのは大時代だけだ』という思いで無我夢中になって練習してきた。しかし、対校クルー一年目(四年生)の夏を境に腰を

壊し、満足に練習に参加できない日が続くと、『このまま一生、満足に運動できなくなっちゃうんかな』という不安に襲われるようになっていた。

運良く最後の年の西医体まで対校クルーのメンバーとして出場することができたのだが、引退する日が近づくとつれ、ポートを現役引退してからも腰を氣遣いながら何か一生続けられるスポーツはないかなーと思っっているいろいろ考えていた。ポートで学んだこと（例：練習前のストレッチや練習後の食事など）を引退後もなんとか生かしていきたいと思っっていた。その時に浮かんできたことは以下のようなことだった。

・一つ上の先輩：山口仁平さんもされているというトライアスロン

・同級の和佐野くんに教えてもらった水泳

・二つ下の後輩：荒木孝太郎くんに教えてもらったスキューバダイビング

※MYエルゴを購入するという案も一瞬頭をよぎったが、よぎっただけだった（笑）

そういうふうにあれこれ悩んでいる時に出会ったのが、なんと!!ダンスだった。その中でも、僕が出会ったのはサルサと呼ばれる南米生まれのラテンダンスだった。

僕は医学部四年次のカリキュラムの一つである、リサーチセミナーにおいて熱帯医学研究所の教室にお世話になった。その教室のスタッフは日本人よりも外国人のほうが

多く、その中でも南米出身の方が多かった。（例：グアテマラ、キューバ、コスタリカ）祖国の話をしている時には、しばしばダンスが登場してきた。そんな時、ある日本人と出会った。

熱帯医学研究所で働いている日本人スタッフには個性的な人が多い。医学部の食堂で食事しているとわかると思うが、日本人なのか、外国人なのかほとんど見分けがつかない人がたくさんいる。恥ずかしながら、ぼくは日本人に英語で話しかけたこともある!!その中に、坊主頭で一目見て怪しいお兄ちゃんがいた。ご存知の方もいらっしゃるかと思うが、この人こそぼくにダンスの楽しさを教えてくれた人だ。

その人に連れて行ってもらったラテンダンスパーティーでは、様々な国の人がノリノリで踊っていた。そこでは、言葉も通じないのにコミュニケーションが成り立っていた。『これなら、ひよつとして世界中の人と仲良くなれるんじゃない?』そんな錯覚に陥ってしまった。しかも、ダンスでは今まで使ったことのない筋肉を適度に動かしひねりを入れなければ腰への負担も少なく、手軽にできちゃう!!ダンスとの出会いは衝撃だった。これは一生続けたいと思った。卒業後医師として働き、患者さんが健康になるための手助けをするにはまず自分自身が健康でないといけないとぼくは思っている。ポート部で学んだこと生かしてこれからはもずっと健康でいたいと思っっている。しかし病院実習先で、

夜遅くまで忙しそうに働いておられる先生方を見ていると、いつ過労死してもおかしくないんじゃないかと思えてきて自分のこれからがすごく不安になってくる。我が医学部漕艇部の部歌をお作りになった今里先生が最近ご病気でお亡くなりになったとお聞きし、その思いは一層強くなった。また、ある科ですごくお世話になった先生に、『医者是自己管理ができないとだめだ。しばらく休んだらすぐ辞めさせられちゃうんだぞ!!』と言われたのもすごく印象的で、しかし、打ち上げ飲み会の時にその先生が油っこいものをバクバク食べて酒をじゃんじゃん飲んでいたのはもつと印象的だった。うくん、医者ってむずかし。しばらくの間、頭のまわりをクエスチョンマークがぐるぐる回って、ぐっすり眠れない日が続いた。

最後に、病院でお仕事をされている先生方、御自身の健康のためにされている何か面白いことがあればどうかぼくに教えてください。ぼくの頭の周りを回っているクエスチョンマークを誰か、取ってください。よろしく願います。

花見

三年 和佐野喜也

春がやってきた。恒例行事の季節である。過去になにかと問題を引き起こしたイベントだった。「花見」である。幹部の私にはいやな予感がしていた。

序盤は順調だった。なごやかな雰囲気ですべてが始まった。そこに私の油断があったのかもしれない。

突然、私達の近くで花見をしていたOL達の悲鳴が聞こえてきた。バッグなどの荷物に向かって小便をしている男がいた。F野だった。

彼は泥酔していた。まずいと思った。小便をしている近くにかばんがあったわけではない。それめがけてやってしまったのだ。確信犯だった。弁解の余地はなかった。

泥酔のF野は、はしゃいでどこかにいってしまったが、私の戦いはここから始まった。とにかく相手の気持ちをおなだめつつ、余計な言質をとられないようにした。相手も交渉相手が問題を起した当人ではないので、それほど強気ではなかった。

なんとかおさまりそうな雰囲気になってきた。そこにSむさんが加わった。やたら強気だった。こちらが有利になる材料は何もないので不思議に思った。

相手が怒り始めた。警察を呼ぼうとした。SSむさんは

突然弱気になったように見えた。彼は小声でいった。「逃げろぞ。」

そこで交渉は終わった。いくらか弁償することやかたはついた。F野は、また一つポト部の歴史に名前を刻んだようである。

今後も花見と月見は、かすかすの猛者を生み出していくのだろう。

二〇〇〇mトリアル・その他

四年 高田 潤

これはいつになつても慣れない。というよりも年々これに対する恐怖感が大きくなっているように思う。何でこんなにきついのか。俺らのレースは一〇〇〇mなんやから一〇〇〇にしろよなー、一〇〇〇に、なんて思ったりもする。まあ、一〇〇〇のトリアルでも一〇〇〇のレースでも死にそうになるのは一緒ではあるのだが・・・それにしても一〇〇〇m余分にひかなければならないのはなあ・・・

オフシーズンは大村のエルゴ測定会で良いタイムを出すのが大きな目標となるわけであるが、実際どのような練習をすればタイムが伸びるのかがいまだに良くわからない。一年の時から自分のタイムを振り返ってみるとあまり

伸びていないことに気づかされる。三〇分漕のメーターは大幅に伸びているのである。自主練で走りこみを行つて一五〇〇m走で四分五〇切るようになったがそれでもあまり二〇〇〇のタイムが伸びていないのが現状である。それでも、一度は夢の六分台を出してみたいものである。全国的に二〇分漕のタイムを測定するのが標準になりつつあるようで大村の測定会でもそちらのタイムを測定する可能性もあるが、とりあえずは二〇〇〇mで良いタイムが出せるように頑張りたいと思う。そのために、一日二〇〇〇mを一本ひくことを目標としたいと思う。

・・・と、ここまで打ってきたところで今まで打った内容をふりかえってみると、えれえーかてえー内容だ・・・まるで筋トレバカだ。他の部員はおもしろいことかいとんやろなーということポト部入ってよかったです。

P・S 豊田さんへ

トリアルといえば・・・エルゴはどれ選んでも一緒にす!!!

三年三人幹部

三年 荒木孝太郎

時間がない。幹部になつてさらにそう思うようになった。だが、二年間幹部ができるのは幸運だと思おう。二年あつたらなんでも出来る気がする。もちろん一年目も勝つつもりだが：

力不足なのは後輩たちもわかつていると思う。でも、力不足なおかげで後輩たちも、練習その他に関して意見を言ひやすいと思う。

新しいことに挑戦して強くなつていこう。

僕は時間がなくて練習が思うようにできない。二人には助けてもらつてばかりだ。

夏がひつぱり、冬が盛り上げる。二人には思う存分暴れてほしい。後始末はまかせろ！

反省

三年 夏田 孔史

坂道での自転車は前輪のブレーキをかけぬよう重々注意しましょう。原口ごめん。

幹部として

三年 冬野 誠也

まったく信じられない事だが、今年の夏から私たちの学年が部を引き継いで新しい幹部となり部を引っ張っている。幹部になつたらなつたで覚悟きめて一生懸命にその役割をこなしていく一心であるが、過去に幹部を務めた先輩方の強烈なカリスマ性もなければ、人数も三人と少なく非常に人手不足となる事は避けられないと思われる。また、そのうち一人は膝に怪我をかかえており、バイトも多くやつているため満足に練習ができていない。不安材料をあければきりがないのであるがそこで恐らく下の学年、特に来年の新三年生の助けを求めることになるのではないかと思われるが、特に期待しているのは精神的な盛り立て、要するに部内の雰囲気盛り上げてほしいという事である。部員一人一人がポト部の雰囲気を作り、また変えていってほしいという事である。幸運なことに今年はポト経験者の一年生が二人も入ってきてくれ、それを刺激に長大の練習を今一度見直し大躍進するチャンスにあると思う。おかしな所や新しいアイデアがあつたら自分から動いてほしい。だれかが動かなければなにも動きません。ポト部を変えていきましょう。期待しています。

雑感

二年 大場 修治

今年からセメスター制が導入されて、前期は九月がない代わりに七月の終わりから八月の初めまで講義や試験があった。これにより夏合宿ができないどころか西医体前に満足な練習ができなかった。シーズン前から話は聞いていたが、実際シーズンが終わってみると試合前に体力が目に見えて落ちていくのがわかった。これはローヤーとして致命的であり、自分にとっても悔しい結果しか出せなかった。来シーズンからはこの教訓を生かしてもう少し考えて、試合によい結果を残せるように頑張りたい。

雑感

二年 茅田 洋之

二〇〇二年十一月二日に nirvana のベストアルバム「Nirvana」が発売された。そのためか、最近様々なところで、「グランジ」や「nirvana」と言った言葉をよく聞くようになった。グランジとは、一九九〇年代の頭にシアトルで起きたパンク・ロック革命にあって、それまで存在していたパ

ンクとハードロックとの境界線を壊し、リアルロックによるムーブメントの中で作られたジャンルであり、その革命の先頭をぶつちぎりで走っていたのが、nirvana であった。その後、様々なバンドが自らにグランジのレッテルを張り活動をしてきたが、結局は大したものではなかった。

nirvana の話になると必ずVoのカート・コバーンが自殺した話になり、あたかもそれが nirvana の重要な要素であつて、だからあんなサウンド、あんなメロディ、で、あんなにネガティブなのだと言つて、ドラマティックな結果からすべてを理解しようとし、解釈付けている人がいるが、それははたして正しいのだろうか。確かに、カートは自殺という劇的な最期を遂げた。が、私はそのことに対して必要以上の意味を見出す必要は無いと思う。セカンドアルバム *Never mind* が爆発的に売れてしまつて、彼らの意思とはまつたく別のところで、いつのまにかロックスターの扱いを受け、そのことに対して罪悪感を覚えたり、様々なプレッシャーを感じたりして、ドラッグに手を出し溺れてしまつた。その結果が、あれだつた。と言つて、悲劇の天才として捉えることができなくも無いかもしれない。しかし、やはりそんな事はどうでもいい事なのだ。ただ単純にその音楽が素晴らしいかどうか、ただそれだけでいいと思う。

実際 *primal scream, goo goo dolls, sum41, oasis, red hot chili peppers, beck, the music, green day, slipknot,* などなど、若いバンドから、長いバンドまで、そして様々なジャンルに渡つ

雑感

二年 西山 光郎

て本当に多くのミュージシャンに影響を与え、多くの支持を得ている。彼らもカートが自殺したという事に関しては、「残念なことだ。」というくらいで、特別、伝説化して捉えることは決してない、あくまで、彼らの音楽やスタイルに惹かれたのである。とにかく、何も考えず nirvana のサウンド、メロディ、そして歌詞を聴けばいい、そうすれば、あのソフトに始まって途中からラウドになる流れも、ギターのリフも、ひたすらカッコよく聴こえ、カートがいかに素晴らしいソングライターだった事が分かるだろう。それだけで十分なのである。

と、まあそれらしい事を書いてきましたけど、あくまで僕個人が思った事なので、nirvana なんか全然分らないって人がいても構わないと思います。osage の中でもノエルが「カート・コバーンはメチャクチャ素晴らしいソングライターだったよ。彼はジョン・レノンになり得たと思ってるよ。」とまで言うてべた褒めしていたのに対して、リアムは「死んでからちょっと興味があつたくらいだな。まあ、いいんじゃないの？知つてはいたけどな、ファツキン・ロング・ヘアーでうるせえ音出して、臭え服着てるヤツらだつて。何曲かまあまあいいと思つたけど、それっきりだ。」って具合で、相変わらずで、まあ、リアムは、特別だとしても、結局は個人的な好みによるのだからってことでしょう。でも聴いて損はしないと思うので、全く聴いたことの無いって人は一度聴いてみてはいかがでしょう。

去年の部誌がちょうど今ごろ完成し、また一年がたつたのかと時間の早さに驚かれる。去年はのんきに漕いでたのに今やAクルーに乗せられ、なぜか副キャプテンに選ばれてしまい、体もごつくなりすつかりポート部である。そういえばポート部に入って私の価値観というか考え方は相当変わってしまった。何が変わってしまったかというところ

一、早起きの概念が劇的に変わった。

(朝六時というのはもはや早くもなんともない。友達が「今日試合で六時起きだったんよ。マジ眠い。」等といったと軽くむかつく。)

二、きついという概念が劇的に変わった。

(週九の部活がオフになり、週七になったらかなり余裕がある気がしている。)

三、ふんどしがはけるようになった。

(顔で笑つて心で泣いて。)

あと三年弱。なんとか頑張ります。

二〇〇二年十一月二日

二年 原口 雅史

今年は、九山でオープン戦二位というなかなか好調な滑り出しであり、西医体もまあまあの結果で終わり、今年はポト部としては良い一年を過ごせるかと思つたが、たつた一日のせいでその考えは全て消え去ってしまった。来年度の四月までまだ四ヶ月半あるが、今年一番不幸な日は、と聞かれたら間違いなく十一月二日と答えられる自信がある。今思うと、不幸の予兆は、その前日、十一月一日から始まつていた。まずは、友人からの、突然の二生理不合格の報告。少しへこまされたが、その日はエルゴのショートがきつくてさらにへこみ、学食に行けば、I 籐が床に落ちたご飯（大）を気づかずに踏みつけ前日のアップ終了。アップでも充分なくらいだ。

そして当日。まずはその日の子々川レガッタが辛かった。試合には負けるし、自分の悪い漕ぎがそのまま出るしで、あまりに悔しすぎて涙を流してしまった。だが、涙は止まつても不幸の流れは止まらない。その日は試合後に艇運搬が予定されていた。去年の、乗艇中に艇にひびが入るという悲劇が思い出される。そんな思いを振り払って乗艇するも、コンディションは去年とそっくりだから不安は募るばかり。そして悲劇は繰り返された。バキツ、メリメリツ。

本当に怖いものは何度でも怖い。その音を聞いて三秒後には思考回路停止、いわゆるパニック状態である。やむなく近くのテトラポットに漂着。そんな不幸続きの自分にあるメッセージが届いた。缶コーヒートのシールの裏から一言。「悔し泣き きつといつかは嬉し泣き」まさにその時の自分にぴったり。まさに神の言葉。これで不幸も終わりと確信した。しかし、後々よく考えてみれば、言葉の送り主は神でなく、おそらく〇カ・〇ーラ社の一社員。これで終わるほど世の中甘くはないらしい。疲れ果てた夜の十一時、もう寝ようという時に突然の電話、相手はN山。嫌な予感が走るが携帯に出ると、それは舌の回らない酔っ払いからの飲みの誘いだつた。明らかに向こうの様子もおかしい。重い足取りを引きずつてたどり着くとそこは戦場だつた。右も左も分らない新米兵は着くなり、K田という敵兵に頭をぼこぼこ叩かれながらひたすら平和を望んだ。願いが届いたのか三〇分後に敵兵は床に撃沈。安心したのも束の間、今度は寝ゲロだからこれは大変、慌てて掃除をはじめ。しばらくして、別の場所に移動することになる。途中、チャリに乗りたいたいというN田さんにチャリを貸す。不幸は突然やつてくるものだ。暗闇の中、N田さんは下り坂にかかると前ブレーキのみをかけたのか突然前のめりになって頭から落ちる。頭から流れた血が小さなツララみたいに固まっているのはさすがに驚いた。T浦さんが病院まで連れて行って一息ついたところで自分のチャリを確認してみ

ると、なんとチャリの前輪の固定部が直角に曲がっている。これはもはや修復不可能と瞬時に判断できた。ああ、チャリよ、一年間ありがとう。その後、K田の様子をみるためにT浦さん宅で留守番をするが、薄着だったために寒くてたまらない。結局、翌朝になると熱を出してしまい寝込む羽目に。

これが二日間の全てである。当分は飲み会が怖くてたまらない日々を過ごしそうだ。

舵手つきクアルテット

二年 松浦 良樹

COX専攻になつてから、乗艇中に極稀に音楽が頭の中をよぎる。パドルやライパなどでキャッチ、フィニッシュが合い、水の上を滑るが如く進む時、それは訪れる。某ボート漫画（難儀なジャンルだ）で言う「風の向こう」とでも言うべきか。その時の気分は最上のもので、レースでトッポゴールする時に匹敵する。つい叫びたくなる。「そう、縦の線を合わせる。アインザッツを意識して!」「落ち着け!慌てるな!そう、マエストロ……」「キャッチしてから次のキャッチまでを一つのフレーズとして捕らえるんだ。滞りなく、優雅に。」つい鼻唄を歌いたくなつてし

まう。そんな素晴らしい漕ぎというものをもっと多く経験できるようにになりたい。至上のクアルテットを聴かせて欲しい。

雑感

一年 笠原 優人

大学に入学する前は、自分がボート部に入るなんて考えもしていなかった。「もういいや、入ろう」と軽い気持ちで入ってしまったボート部ではあったが、半年と少しやってきてボート部に入つてよかったと思うことはたくさんあった。でも、後悔したことがなかったわけではない。例えば、朝練で五時前に起きたときには「ふざけるな、バカ」という気持ちになったし、また、エルゴのある日はテンションがとても低くなつてしまった。しかし最近では、そのすべてが気持ちよく、練習のない日は生きている心地がしない気さえする。これからもより気持ちよくなるようにがんばりたい。

雑感

一年 平野慎一郎

私にとって今年最大の出来事は何だろうか？その答えは書くまでもないだろうが、他に書きたいことも見付からないから（と言いつつノリノリで）、書いておこうと思う。しかし、いきなりこれ！っていうのもなんなので、私の身の周りの出来事に適当に順位をつけて（当社調べ）、一〇〇位から・・・と言いたるところだが、書くのも読むのもつらいので、五位から紹介してみようと思う。

ではまず五位から。五位は、まあこれがなければ、四位以上のことは多分起こらなかつたであろう、大学合格ではないだろうか。バイトしながらよく合格したものだ、今でも考えてしまう。しかし、浪人中の経験が今の自分の五〇%を作り上げていると言っても過言ではない（たぶん・・・）。

四位は、大学に合格したら、お別れだろうと思っていたIさんと同じ大学、同じ学部に来てしまったこと。別に嫌いというわけではないが、ぶっちゃけ浪人中は苦手な存在だった。最近慣れてしまった（あきらめた？）ため、完全に（？）克服。

三位は伊藤との出会い（ちよつと字面がクサイか？）。最初は付き合い難そうな雰囲気醸（カモ）し出していた

が、実はかなりいいヤツ。何でもやりたがる欲張り物だが、これには共感できる。今まで、結構密な付き合いをして、「平野、テンション高過ぎるよ。」と言わなかつたのは、伊藤が初めてではないだろうか。最近、演劇の練習のため、疎遠で少し寂しい。

二位は、『原口さんのノリ突っ込み披露』だろう。どんな打たれ強くなつていくのが、一年の私から見ても分かる。「原口の成長は著しいよ。」（某二年生談）。

さあ、お待ちかね。私の今年最大の出来事とは！（チャララ・・・、ダン！）それは結婚です。自分には勿体ないくらいの奥さんで、その差を埋めるための努力に明け暮れています（たぶん）。みんな早く決めたなつてよく言うけど、そんなことを言いながらも、すごく祝福してくれてうれしい。今後も夫婦ともどもよろしく。以上！

雑感

一年 福島 真典

僕は滋賀県出身で、高校時代はボート部に所属していた。今年は同学年に平野というボート経験者もいるが、これは珍しいことだと思うので、高校ボート部から見た大学ボートのイメージを述べてみたい。

雑感

一年 村田 慎一

琵琶湖では滋賀、京都といった付近の国公立の大学が、多数練習している。練習に関して言えば、早朝、夕方、そして合宿というように大学生はやりたい放題だ。しかし基本的にあんまり強くない、ところが見た目はいつちよ前。そこらへんが嫌いだった。

朝日レガッタが近づくと「一〇〇〇m並べへん？」と声を掛けてくる大学生がいる。そんな時に、調子にのつた大学生を返り討ちにするのが喜びだった。勝つのは当り前、何艇身差をつけるかばかり考えていた。そんななか、たかが高校生に負けてもヘラヘラしてる奴等がいる。そんなところも嫌いだった。

これらの例は、あくまで僕が出会った大学生であり、すべての大学生がそうではないとは分かっていた。しかし、どうしても嫌いだった。

だからこそ、長大に来てボート部に入ることには抵抗があった。合わないようならすぐやめてやろうと思っていた。けど、イメージと違いみんな熱かった。九朝で一緒のクルーをやらしてもらった、仁平さん、吉武さんの熱さが心地よかった。

ボート部に入って半年過ぎ、思うことはいっぱいある。一番言いたいことは西医体の優勝なんて容易だったこと。優勝するのは難しいなんて意識は捨ててもらいたい。次のシーズンからはCOXやらしてもらうんで長大の伝統にバシバシ新しい琵琶湖の風を吹かせよう。そして、そのことを証明したい。

僕は何でボート部に入部したのでしょか。理由は簡単です。一番勧誘をしつこくしてくれたからです。どの部活に入ろうか迷っているうちに勧誘をしてくれるのがボート部だけになってしまいました。そこで僕はナイジェリアでクーデターを体感した先輩に話を聞いて、落ちました。

ぶっちゃけちゃうとはじめ、ボートは川を下る大自然と生きるスポーツだと思っていました。つまり、カヌーかなんかと勘違いしていました。こんなに自然を楽しむ余裕のないスポーツだとは思っていませんでした。

今となつては、ボート部にいない自分の大学生活は考えられません。あの朝練に遅刻することをおびえないで済むマツチヨになつて懸垂を二桁できるようになりたいです

長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告

平成14年度(2月末現在)

収 入	H14 年度	H13年度	備考 (H14ぶん)
前期繰越	1,798,669	1,272,649	
会 費	3,040,000	2,120,000	76名
寄 付	140,000	180,000	10名
部誌製作寄付	390,000	400,000	37社
預金利息	22	236	
合 計	5,368,691	3,972,885	

支 出	H14 年度	H13年度	備考 (H14ぶん)
西医体遠征費	820,300	498,840	エントリー費46,500 輸送費388,500 交通宿泊費補助377,040 船体保険料8,260
九朝レガッタ遠征費	161,000	230,790	エントリー費48,000 輸送費67,840 交通宿泊費補助45,160
九山エントリー費	141,000	136,000	エントリー費75,000 輸送費0 交通宿泊費補助66,000
部誌経費	178,123	212,457	
新入生勧誘費	208,500	200,000	
漕艇保険	279,750	140,200	
ボート協会登録料	59,000	26,000	県協会会費30,000、協会登録費5,000(団体) 協会登録費24,000(1,000×24)
艇修理代	168,000	360,250	鴻図
総会経費	28,999	45,000	
慶弔費	90,352	38,075	高久先生、今里先生生花、OB25周年お祝い
通信費	43,530	44,798	切手、送金料等
雑費	2,007	7,381	封筒、領収証代
合同合宿費	18,000		産業医大、佐賀医大
審判員登録料	90,000		中桶
進水式諸費用	27,023		ハガキ、名入れ
浦上川練習費用	22,296		レンタカー、ブルーシート
ローイングシューズ	56,038		
会費手数料	5,270		
新艇購入	2,226,000		
審判員講習会旅費		50,000	
コーチ料	120,000	120,000	
加盟協会負担金		30,000	
オール購入費		34,425	
次期繰越	623,503	1,798,669	
合 計	5,368,691	3,972,885	

長崎大学医学部漕艇部 部費収支報告

平成13年度9月～14年度8月末

収 入	金額	備考
前期繰越	10,325	
部費	432,000	2000×18人×12ヵ月
臨時部費	9,000	西医体時の赤字補正のための追加徴収：\500×18人
寄付	50,000	OBの先生や父兄より
その他	7,236	飲み会費用等の残金
合 計	508,561	

支 出	金額	備考
車用ガソリン	284,850	練習時の子々川往復・県漕時の形上湾往復等
ビデオ撮影用フィルム	16,225	練習風景撮影用
モーターボート維持費	17,340	ガソリン・オイル等
土産	37,556	丹羽先生・氏家コーチ・合宿所の管理人さんへ
卒業記念品補助費	48,850	卒業生6人への記念品・花束・色紙
艇部品・修理用具	43,321	ボルト・ワッシャー・グラスファイバー・接着剤等
通信費	32,864	切手、送金料等
雑費	20,438	封筒、領収証、ビニールテープ等
ローイングシューズ	3,575	鴻図・崎陽・スカル用シューズ
	220,169	
その他	3,125	ごみ袋・ガムテープ・エルゴ用電池等
次期繰越金	417	
合 計	508,561	

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の内任は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもつて当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならぬ。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿

氏名	勤務先	勤務先病院：勤務先住所	勤務先電話番号	E-mail address 1	医局
	自宅	自宅住所	自宅電話番号	E-mail address 2	卒業年度
長西 靖	731-5125	長西耳鼻咽喉科医院：広島市佐伯区五日市駅前1-11-37	082-923-8122		S46
	731-5125	広島市佐伯区五日市駅前1-4-5-811	082-923-5839		
冬野 誠三	847-0844	なげたけ冬野クリニック：唐津市菜畑3660-1	0955-75-2220		S48
	847-0844	唐津市菜畑4208-57	0955-74-7378	fuyuno@matsuronet.co.jp	
松本 恵一良	593-8326	松本内科クリニック：堺市鳳西町1丁-92-2	072-262-5073		S49
	592-0003	大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-8828	kema@violet.plala.or.jp	
峰 雅宣	854-0071	健保諫早総合病院：諫早市永昌東町24-1	0957-22-1380		第1内科
	852-8046	長崎市柳谷町4-13	095-847-6031		S49
朝戸 末男	891-9112	朝戸病院：鹿児島県大島郡和泊町和泊14	0997-92-1131		S50
	891-9112	鹿児島県大島郡和泊町石川平14	0997-92-2280	sassato@nisiq.net	
内田 隆寿		平戸青州会病院	0950-57-2155		第2外科
	859-4826	長崎県佐世保市瀬戸口11-30			S50
桜井 一枝	720-0822	みつぶじ小児科内科医院：福山市川口町2-22-11	084-953-0307	kazue.s.@fukuyama.hiroshima.med.or.jp	小児科
	721-0952	広島県福山市曙町5丁目24-38	0849-54-4454		S50
瀬戸 信二	852-8102	長大附属病院第3内科：長崎市坂本1-7-1	095-849-7288		第3内科
	852-8052	長崎市岩屋町17-2	095-857-1808		S50
早田 篤	852-8108	長崎市北保健センター：長崎市川口町6-10	095-845-5151		小児科
	852-8025	長崎市立岩町77-10	095-862-5622		S50
田川 泰	852-8102	長崎大学医学部保健学科：長崎市坂本1-7-1	095-849-7900		第1外科
	851-2128	長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-887-1391	tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	S50
富海 五郎	791-8022	松山記念病院：松山市美沢1-10-38	089-925-3211		愛媛大精神科
	790-0903	松山市東野1丁目6-15	089-977-1812		S50
中野 文耕	853-2301	若松国民健康保険診療所：長崎県南松浦郡若松町若松郷281	0959-46-3315		第2外科
	853-2301	長崎県南松浦郡若松町若松郷281	0959-46-3318		S50
丹羽 正美	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7041		第1薬理
	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4	095-883-6395	niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	S50

馬渡 一雄	850-0001	まわり内科循環クリニック	095-822-0101	第3内科
	850-0001	長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101	S50
石川 治	670-0936	石川医院：姫路市古二階町135	0792-23-3270	岡山大外科
	670-0936	姫路市古二階町12	0792-23-1307	S52
川口 昭男	850-0045	井上病院：長崎市宝町8-9	095-844-1281	第1外科
	852-8046	長崎市柳谷町14-27	095-847-5529	S52
神田 源太	851-0502	塚崎病院皮膚科：長崎県西彼杵郡野母崎町以下宿2910	095-894-2131	皮膚科
	850-0003	長崎市片淵1丁目12-7	095-822-7051	S52
田中 精一	192-0903	八王子消化器病院：八王子市万町177-3	0426-26-5111	女子医大消化器センター
	193-0811	八王子市上巻分方町246-1	0426-51-7640	S52
堤 健二	834-0004	川崎病院：福岡県八女市納楚421-1	0943-23-3005	脳外科
	834-0024	福岡県八女市津江541-2ひまわりコーポ1-302	0943-24-5412	S52
吉良 満夫	852-8008	浜崎外科病院：長崎市曙町3-6	095-861-6034	第2外科
	852-8008	長崎市曙町3-6	095-861-7431	S54
出口 正巳	530-0012	白壁美容外科：大阪市北区芝田1-14-7	06-6372-2512	形成外科
	658-0003	兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-45-601	078-413-5008	S54
井上健一郎	850-0045	井上病院：長崎市宝町6-12	095-844-1281	第2内科
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218	S55
江口 圭介	857-0134	長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191	第3内科
	857-0015	佐世保市松山町5-38	0956-22-2224	S55
成松 元治	856-0835	国立長崎中央病院：大村市久原2-1001-1	0957-52-3121	心臓血管外科
	852-8054	長崎市エミネント葉山町15-7	095-857-6855	S55
水谷 明正	851-0301	長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54	095-871-1515	第2外科
	850-0963	長崎市ダイヤランド1-36-19	095-878-3807	S55
小倉 猛	866-0826	熊本労災病院：熊本県八代市竹原町1670	0965-33-4151	形成外科
	866-8533	熊本市国図町重富744-13	096-379-7592	S56
谷川 宗生	852-8061	長崎北病院：長崎市滑石5-4-61	095-857-0001	第3内科
	851-2127	西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-883-4030	S56

難波 裕幸	852-8523 長崎大学医学部原研細胞：長崎市坂本1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-849-7115 095-883-7541	namba@net.nagasaki-u.ac.jp	原研細胞 S56
前原 洋二	835-0024 森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄590 830-0047 福岡県久留米市津福本町786-6グラウンビエランション津福1001	0944-63-2040 0942-37-5038	stady@m@polka.plala.or.jp	S56
村山 晋	515-0004 済生会松阪総合病院内科：三重県松阪市朝日町1区15-6 514-0003 津市桜橋3-53-17津ロープリーマーション202	0598-51-2626 059-224-0129	s-murayama@h8.dion.ne.jp	三重大第1内科 S56
山近 史郎	852-8102 長大附属病院心臓血管外科：長崎市坂本1-7-1 850-0015 長崎市桜馬場2丁目1番1-1101	095-849-7288 095-825-3580	shiyama@net.nagasaki-u.ac.jp shiyama@aurora.dti.ne.jp	心臓血管外科 S57
岡田 代吉	807-0843 おかだ外科胃腸科ニッパ：北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-605 807-0843 北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202	093-613-7188 093-613-3732		S58
倉富 彰秀	842-0002 倉富眼科医院：佐賀県神埼郡神埼町大字田道ヶ里2435-1	0952-52-8841	posa@po.saganet.ne.jp posa-japan@msf.biglobe.ne.jp	S58 S58
末永 俊郎	801-0855 末永産婦人科麻酔科医院：北九州市門司区門司6-15 801-0852 北九州市門司区港町6-15	093-321-2453 093-322-1751	suetoshi@kk.ij4u.or.jp	S58
中崎 隆行	852-8104 長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15 852-8102 長崎市坂本2-18-15	095-847-1511 095-842-2391	nakazaki@topaz.ocn.ne.jp	第1外科 S58
永見 耕一	758-0025 永見眼科医院：山口県萩市土原351	08382-2-0720	eimiy33@lime.ocn.ne.jp	S58
永山 雄二	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4 851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷579-40	095-849-7043 095-887-2796	nagayama@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S58
松永 伸彦	854-0072 まつなが眼科：諫早市永昌町43-1 854-0074 諫早市山川町12-14	0957-25-8866 0957-27-1333	matsu6@mocha.ocn.ne.jp	S58
今里 雅之	～逝去～			女子医大消化器センター S59
小林 誠博	北九州市立八幡病院 805-0034 北九州市八幡東区清田2丁目16-21-503	093-662-6565 093-651-8786		S59
平野 友久	850-0953 上戸町病院：長崎市上戸町129 850-0963 長崎市ダイヤランド3-28-6	095-879-0705 095-878-8913		S59

糸柳 則昭	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8027 長崎市城山台1-9-11	095-849-7304 095-861-3747		第1外科 S60
日高 真	311-3122 石崎病院：茨城県東茨城郡茨城町上石崎4698 300-1245 茨城県つくば市高崎692-5	029-293-7155 0298-73-3382	ccx00020@hkg.odn.ne.jp	筑波大精神科 S60
松岡 直樹	850-0832 後藤会病院：長崎市油屋町1-21 850-0037 長崎市金屋町9-9-1301	095-822-3151 095-829-4077	nmatuka-nag@nagasaki.met.or.jp	第1内科 S60
矢次 登	800-0344 小波瀬病院：福岡県京都郡刈田町大字新津字池ノ下1598 803-0827 北九州市小倉北区緑ヶ丘3-4-18-2015	09-302-4-5211 093-591-7670		整形外科 S60
高須 勝也	850-0822 愛宕病院：長崎市愛宕4丁目521 859-0401 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名20-133	095-823-7107 0957-43-2654		第2外科 S61
中里 貴浩	816-0864 福岡徳州会病院消化器内科：福岡県春日市須玖北4-5 811-2103 福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3丁目19-5	092-573-6622 092-934-3648		内科 S61
中山 大介	852-8102 長大附属病院産婦人科：長崎市坂本1丁目7-1 850-0048 長崎市長上銭座町12-2	095-849-7363 095-848-4575	nakayama@net2.nagasaki-u.ac.jp	産婦人科 S61
青木 幹弘	857-0056 佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9-3 857-0018 佐世保市横尾町138	0956-24-1515 0956-22-7340		小児科 S62
石井 久敬	814-0133 福岡大学病院精神神経科：福岡市城南区七隈7-45-1 814-0001 福岡市早良区百道浜4-17-9	092-801-1011 092-821-7340		福岡大学精神神経科 S63
岡野 邦彦	852-8102 長大附属病院整形外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8117 長崎市平野町14-13セクトビル又平野102号	095-849-7384 095-849-7321	kuni@net.nagasaki-u.ac.jp	整形外科 S63
朝長 道生	843-0301 朝長医院：佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿乙2188 843-0301 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿乙2191	0954-43-2117 0954-43-2132	mcotmng@hotmail.com	第2内科 S63
中島 寅彦	812-8582 九州大学医学部耳鼻咽喉科：福岡市東区馬出3-1-1 814-0113 福岡市城南区田島5-10-10	092-642-5668 092-871-5238	nakatora@gent.med.kyushu-u.ac.jp mietora@ibm.net	九大耳鼻科 S63
天野 秀明	852-8055 虹ヶ丘病院：長崎県長崎市虹ヶ丘町1-1 852-8027 長崎市城山台2丁目30-3	095-856-1112 095-864-1101	chinu@teres.dti.ne.jp	呼吸器科 H1
金色 正広	805-0061 北九州市立八幡病院麻酔科：北九州市八幡東区西本町4-18-1 805-0061 北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-662-6565 093-663-3055	kanairo@mars.dti.ne.jp	麻酔科 H1

吉川 公正	804-0012 健和会中原病院：北九州市戸畑区中原東3丁目10-17	093-881-8181		脳外科
	808-0016 北九州市若松区原町9-6	093-751-6528	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	H1
旭 隆宏	874-0011 国立別府病院：大分県別府市大字内かまど1473	0977-67-1111		九大小児科
	874-0011 大分県別府市大字内かまど1473国立別府病院官舎R-6-5	0977-27-9555	asahit@beppu.hosp.co.jp	H2
白藤 智之	852-8125 シェラクスコ病院：長崎市小峰町9-20	095-846-1888		第1外科
	852-8151 長崎市泉1丁目3-4	095-848-0191	shirafugji@sfn.or.jp	H2
寺尾 保信	113-0021 東京都立駒込病院：文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		慈恵大形成外科
	108-0074 東京都港区高輪3-1-16-206	03-3443-5034	y.terao-k@komagome-hospital.bunkyo.tok	H2
中村 晋	813-0042 中村内科医院：福岡市東区舞松原1丁目6-18	092-681-7363		
	813-0031 福岡市東区八田2丁目 1-52 ザエル宇香椎南413	092-662-4414	RYO-n@nn.ij4u.or.jp	H2
山本 太郎	606-8501 京都大学大学院医学研究科：京都市左京区吉田近衛町	075-753-4355	taro-y@pbh.med.kyoto-u.ac.jp	熱研社環境
			TaroY0103@aol.com	H2
生田 安司	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7304	yikuta@net.nagasaki-u.ac.jp	第一外科
	852-8022 長崎市富士見町10-25-302	095-861-9733	yikuta@clin.medic.mie-u.ac.jp	H3
市川 辰樹	852-8501 長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7200	ichikawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1内科
	852-8125 長崎市小峰町14-3-601	095-843-1470		H3
鈴木 康弘	National Institute of Health	301-496-9238	totoro_64@yahoo.com	熊大第2内科
	Bldg.10, Rm5A11, 9000 Rockble Pike, Bethesda, MD 20892, U.S.A.			H3
田中 邦彦	Rutgers the State Universte of Nj. School of Pharmacy		kunny@xd6.so-net.ne.jp	第2外科
	816-0822 春日市ちくし台5-8 (留守宅)			H3
山本 修	850-0015 山本外科医院：長崎市桜馬場1-9-20	095-823-8585		第2外科
	850-0015 長崎市矢ノ平二丁目2-23	095-824-4600		H3
劉 中誠	825-8567 田川市立病院：福岡県田川市大字櫛1700-2	0947-44-2100		第1外科
	825-0004 福岡県田川市桐ヶ丘6-2組医師住宅2号	0947-45-4956	cyu@ruby.ocn.ne.jp	H3
黒木 保	852-8102 長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	852-8027 長崎市城山台1-42-11-403	095-862-8052	koromoto@tt5.so-net.ac.jp	H4
佐藤 俊一	380-0922 長野赤十字病院：長野市若里5丁目22-1	026-226-4131	ssato@nagano-met.jrc.or.jp	信州大第3内科
	380-0922 長野市栗田202-1カサノ一チA1-103	026-228-3552	shunichi@eb.mbn.or.jp	H4

趙 成三	852-8102	長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370	chos@net.nagasaki-u.ac.jp	麻酔科
	852-8065	長崎市横尾2-13-17シテイパルク横尾303	095-856-3793		H 4
津田 純	154-0014	津田耳鼻咽喉科：世田谷区新町3-20-1	03-5450-7237	yumikaya@mx9.ttcn.ne.jp	H 4
	154-0016	世田谷区弦巻1-44-3レジオン弦巻205号	03-3439-7759		
中野 基		ハーバード大学医学部ボストン小児病院 33 Pond Avenue, #201 Brookline, MA, 02445-7136, U.S.A.	1-617-355-5009	mmakano@rascal.med.harvard.edu	形成外科
			1-617-264-7999		H 4
福井 雅士	852-8003	共立病院：旭町26-18	097-536-5050		形成外科
	870-0022	長崎市善木町302-43	095-861-3693	fukumassashi@clubaa.com	H 4
南 恵樹	852-8102	長崎大学附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		第2外科
	850-0951	長崎市国分町10-6	095-824-5123		H 4
竹下 浩明	859-3615	国立療養所 川棚病院 外科：長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1	0956-82-3121		第1外科
	859-3615	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1官舎17号棟201	0956-82-5921	hiro-t@fsinet.or.jp	H 5
近藤 新一		アメリカ留学中			形成外科
	491-0859	愛知県一宮市本町通8丁目14番地	0586-72-3961		H 6
斎藤 将隆	852-8102	長大附属病院集中治療部：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370	parsifal@net.nagasaki-u.ac.jp	麻酔科
	851-2127	長崎県西彼杵郡長与町高田郷60-1-401	095-855-1496		H 6
阪上 学	552-0021	大阪船員保険病院麻酔科：大阪市港区築港1-8-30	06-6572-5721	sakaue@anes.med.osaka-u.ac.jp	大阪大麻酔科
	662-0976	兵庫県西宮市宮西町14-13フタミール風川508	0798-37-1475	sakaue@ff.ij4u.or.jp	H 6
松尾 敏明	653-0041	神戸協同病院：神戸市長田区久保町2-4-7	078-641-6211		神戸大国際予防医学
	651-2103	神戸市西区学園西町7-1アケテイ学園西町754号棟506号室	078-794-0910	maritongtong@yahoo.co.jp	H 6
岩井 敏郎	812-0054	九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1	092-641-1151	tiwai@heart.med.kyushu-u.ac.jp	九大心臓血管外科
	810-0054	福岡市中央区今川2丁目7-52-303	092-737-3773		H 7
宗 英吾	852-8003	共立病院：長崎市旭町26-18	095-862-0001		耳鼻科
	852-8061	長崎市滑石1丁目4-55メゾン・ドソレイユ601	095-857-5273		H 7
中橋 了太	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7043		第1薬理
		5316 Pershing APT 501, St. Louis, MO, 63112 U.S.A	314-454-3863	nakaake-ngs@umln.ac.jp	H 7
藤本 武士	825-0005	福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100	tfujimoto@hospital.tagawa.fukuoka.jp	第1内科
	825-0005	福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100		H 7

安田 恵多良	550-0015	大野記念病院	06-6531-1815		大阪大脳外科
	550-0015	大阪市西区南堀江1-18-11-202	06-6531-3133	Kayo-ts@zp3.so-net.ne.jp	H 7
古賀 洋安	098-5204	北海道枝幸郡歌登町国民健康保険病院	01636-8-2341		久留米大小児科
	098-5204	北海道枝幸郡歌登町南町403-60	01636-8-3881	hiroppo@mx6.tiki.ne.jp	H 8
城田 利彦	812-0054	九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1	092-642-6942	tshirota@medeng.med.kyushu-u.ac.jp	九大心臓血管外科
	810-0062	福岡市中央区荒戸2-2-5-803	092-751-7765		H 8
関 徹		東北大学精神科	022-717-7262	QWP07174@nifty.ne.jp	東北大精神科
	981-0933	仙台市青葉区柏木1-9-11-304	022-274-6311		H 8
武野 正義	565-0873	国立循環器病センター心臓内科：吹田市藤白台5-7-1	06-6833-5012	mtakeno@hsp.ncvc.go.jp	第3内科
	562-0026	大阪府箕面市外院2丁目16-11 ドルツ箕面201号	0727-26-8970		H 8
福田 顕三	852-8102	長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	852-8157	長崎市泉2丁目1-23	095-842-1158		H 8
山里 昌司	825-8567	田川市立病院：福岡県田川市大字糠1700-2	0947-44-2100		第3内科
	825-0002	福岡県田川市桐ヶ丘1組医師住宅11-A	0947-45-3025		H 8
岡 真一郎	857-0026	千住病院：佐世保市宮地町5-5	0956-24-1010		第2内科
	857-0041	佐世保市木場田町8-21-402号	0956-25-8684		H 9
岡田和一郎	440-0836	愛知県豊橋市飯村町字高山11番地	0532-62-0301		慶応大耳鼻科
	440-0033	愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301	090-1625-8528		H 9
牟田口 滋	800-0031	北九州市門司区高田2-1-1：JR九州病院整形外科	043-381-5661		九大整形外科
	800-0031	北九州市門司区高田1-3-20-502	093-391-9366	shigenuta@ybb.ne.jp	H 9
大石 正雄	690-0886	松江赤十字病院形成外科：島根県松江市母衣町200	0852-24-2111		形成外科
	690-0876	島根県松江市黒田町487-11	0852-25-2569	moishi99@hotmail.com	H 1 0
古賀 聖士	851-0301	長崎記念病院：長崎市梁堀町1-11-54	095-871-1515		第2内科
	850-0918	長崎市大浦町9-36-207	095-811-3763	kogase@mac.com	H 1 0
崎元 暢	173-8610	日本大学医学部眼科：板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111	torusaki@med.nihoun-u.ac.jp	日大眼科
	108-0072	港区白金2-7-17-1102	03-3443-3313	toruotto@mwe.biglobe.ne.jp	H 1 0
山崎 励至	852-8102	長大附属病院原研内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-814-6446	reishi@net.nagasaki-u.ac.jp	原研内科
	851-2127	西彼杵郡長与町高田郷151-61			H 1 0

高橋 優二	852-8003	共立病院：長崎市旭町26-18	095-862-0001		耳鼻科
	852-8131	長崎市文教町12-3ライオンズマンション609	095-848-2841		H11
谷川 治	815-0032	九州中央病院：福岡市南区塩原3-23-1	092-541-4936		九大第2外科
	815-0042	福岡市南区若久1-32-16-601			H11
牧野 淳	113-8677	都立駒込病院：東京都文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		千葉大第2内科
	114-0014	東京都北区田端2-3-14ノゾラレジデンス1-305	03-3823-1976	j.makino@ma5.justnet.ne.jp	H11
宮崎 浩充		東北大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科			耳鼻科
	981-3133	仙台市泉区泉中央3丁目7-8ガーデンプラザ泉中央401	022-773-4866	hiro-m@yg7.so-net.ne.jp	H11
山本 経之	856-8562	国立病院長崎医療センター形成外科：大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121		形成外科
	856-8562	大村市久原2丁目1001-1国立病院長崎医療センター松移館101	0957-52-0765	cds30130@syd.odn.ne.jp	H11
吉野 俊平	820-0018	福岡飯塚病院：飯塚市芳雄町3-83	0948-22-3800		飯塚病院
	820-0005	飯塚市新飯塚6-6-607	0948-23-8590	syoshi26@aol.com	H11
澁谷 正樹	755-0067	山口大附属病院第2内科：山口県宇部市南小串1-1-1	0836-22-2653		山口大第2内科
	755-0035	宇部市西琴芝2丁目10-23-203	0836-29-0428	bc8m-sby@asahi-net.or.jp	H12
土井 晋平					H12
福田 義文					H12
	700-0806	岡山市広瀬町13-16本郷様方	070-5907-2677		H12
程野 茂樹		愛媛大学眼科			愛媛大眼科
	799-3111	愛媛県伊予市下吾川676-1	0899-83-3504		H12
松永 祥志	852-8102	長大付属病院脳外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7465		脳外科
	852-8137	長崎市若葉町3-3シャトー若葉503			H12
及川 将弘					H13
	870-0856	大分市畑中県病舎202	090-1167-8282		H13
森 創	852-8102	長大付属病院小児科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7462	mailto:neomoriso@k2.dion.ne.jp	
	852-8114	長崎市橋口町14-17ファミロハイツ301	095-844-3801	mailto:neomoriso@ezweb.ne.jp	H13
ウイケンロウ	162-8666	東京女子医科大学病院：東京都新宿区河田町8-1	03-3353-8111		心臓血管外科
		東京都新宿区住吉町149カーサボンニータ3-C	090-9408-8805		H13

松本 周平	857-0134	長崎労災病院麻酔科：佐世保市瀬戸越2丁目12-5				H13
	8570134	佐世保市瀬戸越2丁目西八宿舍201				
諸藤 陽一		国立病院長崎医療センター：大村市久原二丁目1001-1				H13
		大村市久原二丁目1001-1国立病院長崎医療センターあかしや荘104				
蓬菜 彰士	852-8102	長大付属病院精神神経科：長崎市坂本1丁目7-1				精神神経科
	852-8116	長崎市平和町8-23パーケイ卜平野町202				H14
青山 英和	755-0067	山口大付属病院第2内科：山口県宇部市南小串1-1-1				山口大第2内科
	755-0067	山口県宇部市小串539-2-101				H14
西條 知見	852-8102	長大付属病院第2内科：長崎市坂本1丁目7-1				第2内科
	852-8116	長崎市平和町20-16エージェルコート白川201				H14
高木 理博	852-8102	長大付属病院熱研内科：長崎市坂本1丁目7-1			rihaku1@mizar.freemail.ne.jp	熱研内科
	852-8113	長崎県上野町7-17ATビル302				H14
田辺 孝大	852-8102	長大付属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1				麻酔科
	852-8123	三原町1丁目1番23号グイラデルソノ平川101				H14
渡辺 庸平	984-0075	仙台市立病院小児科：宮城県仙台市若林区清水小路3-1				小児科
	984-0075	宮城県仙台市若林区清水小路3-1仙台市立病院小児科			nabe-76@eagle.ocn.ne.jp	H14
						(以上119名)
[物故者]						
小村三代治		～逝去～				S55
松尾 圭一		～逝去～				S58
今里 雅之		～逝去～				女子医大消化器センター S59

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号		役職
	自宅	自宅	自宅電話番号	自宅電話番号	
村上 文也	850-0036	長崎市五島町3-3-202	095-826-7757		会長
	852-8117	長崎市平野町1-25	095-847-5132		
須山 弘文	850-0803	玉木女子短大：長崎市風頭1-33	095-822-8694		顧問 前法医学教授
	852-8065	長崎市横尾2丁目4-5	095-856-1321		
尾崎 正若	861-1102	熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761		顧問
前第2薬理教授					
山口 光次	852-8145	長崎市昭和町2丁目5-14	095-844-5272		顧問
県ボート協会会長					
吉田 恒雄	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979		顧問
井上 健一郎	850-0045	井上病院：長崎市宝町6-12	095-844-1281		事務局担当
	852-8102	長崎市坂本1-2-5	095-846-2218		
中山 大介	852-8102	長大附属病院産婦人科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7363		代表世話人
	850-0048	長崎市中銭座町12-2	095-848-9401		
蓬萊 彰士	852-8102	長大附属病院精神科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7293		世話人
	852-8116	長崎市平和町8-23パークサイド平野町202	090-1369-5720		
西條 知見	852-8102	長大附属病院第2内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7274		世話人
	852-8116	長崎市平和町20-16エンジェルコート白川202	095-848-9751		
高木 理博	852-8102	長大附属病院熱研科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7384		世話人
	852-8113	長崎市中野町7-17ATビル103	095-842-2944		
田辺 孝大	852-8102	長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		世話人
	852-8123	長崎市三原町1466グイラ・デル・ソッコ平川101	095-848-4449		
高久 功	850-0963	長崎市ダイヤランド1丁目44-15	095-879-3699		顧問
(※H14に逝去) 前眼科学教授					

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考 卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町 1 7-1	095-856-2711	開業 S 1 9
岡本 英雄	855-0831 島原市湊道町 2 丁目 7 0 2 4	0957-62-2452	開業 S 7
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町 2-2 2	095-844-3043	開業 S 3 7
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町 5-1 1	095-822-0321	開業 日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑が丘町 1-4	095-846-2052	開業 S 1 9
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町 4-1 8	095-824-0590	開業 S 2 0
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町 2 2-1 7	095-845-6181	開業 S 3 0
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町 1 7-1	095-861-3576	開業 S 3 0

長崎大学医学部漕艇部役員名簿

氏名	連絡先住所	連絡先電話番号 第2連絡番号	役職
丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4	095-849-7041	顧問
氏家 祐二	未確認 (※平成15年4月1日付けで三菱重工(株)東京本社に御駐勤となりました)		コーチ
夏田 孔史			主将 4年
西山 光郎			副主将 3年
荒木 孝太郎			主務 4年
松浦 良樹			主務 3年

編集後記

漕魂 25号です、発行が遅れた事で多くの方々にご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

毎年漕魂を発行していますが、今回は最も遅れたかも知れません。

原因は、パソコンがクラッシュしてデータが全部消えた事と、今回は追悼号だったので、先生方に寄稿していただくのに時間がかかったためです。

本を出版することがどれだけ大変な事か、少し分かった気がします。一時、出版できるかどうかさえ不安になりましたが、多くの方に迷惑を掛けながら、それでも多くの方の協力があったお陰で、無事に漕魂 25号は完成しました。ありがとうございました。

次の、漕魂 26号はすでに作り始めています。次の、後輩達を作る漕魂は早く先生方のお手元に届けられると後輩に期待していますが、これは先輩達も毎年思ってきた事なんだろうなあ…と、毎年同じ感じの現役ボート部員でした。

平成 15年 12月

編集者代表 末下 雅也



プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール錠¹⁰/₂₀

Omepral[®] Tablets 10・Tablets 20 オメプラゾール錠

指定医薬品

薬価基準収載

プロトンポンプ・インヒビター

オメプラール[®] 注用20

Omepral[®] Injection 20 オメプラゾールナトリウム注射剤

指定医薬品

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、各製品添付文書をご参照下さい。

製造・販売元(資料請求先) アストラゼネカ株式会社 大阪市北区大淀中1丁目1番88号

2002年4月作成

プロトンポンプ・インヒビター

指定医薬品

タケプロン[®]

カプセル15・30
(ランソプラゾールカプセル)



タケプロン[®] OD錠
(口腔内崩壊錠)

●新発売●

■効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Takepron[®] ■薬価基準:収載



 (資料請求先) 武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

(0206:B52)

田辺製薬株式会社



生薬三十一種配合 医薬品

ナンパオ

【効能・効果】 中年期以降における
疲労倦怠感を伴う腰痛・肩こり
【用法・用量】 成人1回2カプセルを1日2回、
朝晩食後に服用

<http://www.tanabe.co.jp/nanpao/>

- 商品についてのお問い合わせは、
田辺製薬「くすり相談窓口」
☎0120-54-7080
(弊社営業日の9:00~17:30)
- ナンパオのお買い求めは、全国の
薬局・薬店でお願いいたします。

Gentlepharma
キキメとカラダのグッドバランス

98NAO-58

カプセルに。

効き目を、

生薬31種の

続く元気。

続ける生薬、

祝 「漕魂」 25号発行

<p>ノバルティス ファーマ株式会社</p> <p>長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル3F</p> <p>〒850-0045 ☎ 095-827-3600</p>	<p>三共株式会社</p> <p>長崎市宝町3-17</p> <p>〒850-0045 ☎ 095-826-8325</p>
<p>日本化薬株式会社</p> <p>長崎市千歳町21-1 久部ビル2F</p> <p>〒852-8135 ☎ 095-849-2777</p>	<p>大鵬薬品工業株式会社</p> <p>長崎市油木町11-5</p> <p>〒852-8035 ☎ 095-847-2243</p>
<p>日本ケミファ株式会社</p> <p>福岡市博多区住吉3丁目1-80</p> <p>〒812-0018 ☎ 092-272-1031</p>	<p>協和発酵工業株式会社</p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル6F</p> <p>〒850-0051 ☎ 095-822-8514</p>
<p>第一製薬株式会社</p> <p>長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル2F</p> <p>〒850-0051 ☎ 095-826-8050</p>	<p>大正富山医薬品株式会社</p> <p>長崎市五島町5-48 長崎船用品ビル3F</p> <p>〒850-0036 ☎ 095-821-7269</p>
<p>ファイザー製薬株式会社</p> <p>長崎市中町1-26 住友生命長崎中町ビル8F</p> <p>〒850-0055 ☎ 095-827-2443</p>	<p>カネボウ薬品株式会社</p> <p>長崎市大浦町1-38 カネボウ化粧品九州販売(株)長崎支社2F</p> <p>〒850-0918 ☎ 095-820-6495</p>
<p>住友製薬株式会社</p> <p>長崎市興善町4-5 アクサニチダン長崎ビル5F</p> <p>〒850-0032 ☎ 095-824-6715</p>	<p>大塚製薬株式会社</p> <p>長崎市油木町11-5</p> <p>〒852-8035 ☎ 095-846-7302</p>

祝 「漕魂」 25号発行

バイエル薬品株式会社

長崎市平野町12-11 井手ビル5F

〒852-8117 ☎ 095-841-8250

中外製薬株式会社

長崎市西坂町2-3
長崎駅前第一生命ビル7F

〒850-0051 ☎ 095-825-4772

旭化成工業株式会社

長崎市千歳町6-33 千秀ビル

〒852-8135 ☎ 095-848-7601

大日本製薬株式会社

長崎市万才町8-22 長崎朝日ビル6F

〒850-0033 ☎ 095-821-8412

藤沢薬品工業株式会社

長崎市勝山町37 栄泉長崎ビル5F

〒850-0028 ☎ 095-824-2202

小野薬品工業株式会社

長崎市出島町1-14
出島朝日生命青木ビル8F

〒850-0862 ☎ 095-822-8271

萬有製薬株式会社

長崎市興善町4-5
日本団体生命長崎ビル6F

〒850-0032 ☎ 095-823-7141

他、多数のメーカー様の協賛
ありがとうございました

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 _____ 年卒 _____

現住所 _____

勤務先 _____

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという時期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。